

IBM

@server

iSeries

論理区画トラブルシューティング





@server

iSeries

論理区画トラブルシューティング

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2002. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2002

目次

論理区画トラブルシューティング	1
論理区画のシステム参照コード (SRC)	1
サーバーに論理区画があるかどうかの判別	12
論理区画のシステム参照コード (SRC)	12
論理区画のプロダクト活動ログ (PAL) の表示	14
各論理区画のシステム参照コードの検出	14
論理区画のシステム参照コードの解決	15
論理区画のエラー・メッセージおよび報告書	16
論理区画の構成データの処理	32
論理区画の構成データの回復	33
すべての構成データの保管	34
すべての構成データの復元	35
論理区画の区画構成データの消去	36
すべての論理区画の区画構成データの更新	36
非構成ディスク装置からの区画構成データの消去	37
論理区画の非報告リソースの消去	37
論理区画の IPL 装置としてのディスク装置の受け入れ	39
IPL ソース間での区画構成データのコピー	39
すべての論理区画の削除	40
サービス技術員の援助を必要とする状態	41
論理区画を持つサーバーでの主記憶域ダンプの実行	41
論理区画を持つサーバーでの主記憶域ダンプの強制	42
論理区画でのリモート保守の使用	42
論理区画のあるドメインの電源オン/オフ	43
論理区画のあるディスク装置 IOP のリセット	43

論理区画トラブルシューティング

区画に分割されたシステムに問題がある場合は、その問題が論理区画に特定のものであるか、一般的なシステム問題であるか判別してください。問題が一般的なシステムの問題かどうかを判別するには、『トラブルシューティングとサービス』を参照してください。問題が論理区画に固有のものである場合は、SRC ファインダーとともにこのセクションを使用して、エラーを解決するために必要なシステム参照コード (SRC) および回復処置を理解してください。ただし、特定の回復処置および作業ではテクニカル・サポート・センターの援助が必要となる場合があります。

論理区画 SRC ファインダー

SRC ファインダーを使用して、論理区画に関連するシステム参照コードの詳細記述を調べます。

サーバーに論理区画があるかどうかの判別

iSeries ナビゲーターを使用して、サーバーが論理区画を実行するように構成されているかどうかを判別します。

論理区画のシステム参照コード (SRC)

サーバーで論理区画のエラーが起こったかどうかを判別する方法を学習します。

論理区画のプロダクト活動ログ (PAL) の表示

専用保守ツール (DST) またはシステム保守ツール (SST) を使用して、論理区画のシステム参照コードを検出します。

各論理区画のシステム参照コードの検出

iSeries ナビゲーターを使用して、サーバー上の各論理区画の最新のシステム参照コードを検出します。

論理区画のシステム参照コードの解決

論理区画の共通システム参照コードおよび示唆される訂正処置のリストを検出します。

論理区画のエラー・メッセージおよび報告書

論理区画の特定のエラー・メッセージのリストを入手します。

論理区画の構成データの処理

DST および SST を使用して、構成データの消去、コピー、および更新、非構成のディスク装置の構成、非報告のリソースの消去、ディスク装置の IPL 装置としての受け入れ、サーバーの論理区画の削除を行うことができます。

サービス技術員の援助を必要とする状態

テクニカル・サポート・センターからの技術援助を必要とするサーバー問題を報告します。

論理区画のシステム参照コード (SRC)

PAL に記録される共通の SRC のリストを、以下に示します。それぞれの SRC の後に訂正処置を示します。SRC がリストされていない場合は、論理区画に関係していない場合があります。『トラブルシューティングとサービス』を参照するか、または次の保守レベルに連絡してください。

『論理区画のシステム参照コード (SRC)』では、SRC の概要とその識別方法について説明しています。

注: 以下の表において、SRC コードの番号 xx は区画 ID と同じです。

SRC	情報
1 B2xx 1230	<p>原因: 2 次区画が IPL を実行できませんでした。IPL は終了されました。この SRC が表示された原因としては、たとえば、適切な数のプロセッサ、または適切な容量のメモリーが 2 次区画に割り当てられていないなどがあげられます。</p> <p>回復処置: 「システム区画の処理」画面から、理由コードに応じて構成上の問題を訂正し、2 次区画の IPL を再試行します。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: 理由コードを SRC のワード 3 から識別します。考えられる理由コードの値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 000000A2: 対話式パフォーマンスの量が不十分である • 000000A3: プロセッサ数が不十分である • 000000A4: 主記憶域のサイズが不十分である <p>他の理由コードについては、サービス提供元に連絡してください。</p>
B2xx 1250	<p>原因: 1 次区画の IPL モードでは、指定されたモードの IPL を 2 次区画で実行できません。IPL は終了されました。この SRC が表示された原因としては、たとえば、1 次区画の IPL モードが C モードであり、2 次区画の IPL モードが B モードであるなどがあげられます。1 次区画の IPL モードが D モードの場合は、2 次区画は IPL を実行できません。</p> <p>回復処置: 「システム区画の処理」画面に移動して、2 次区画に 1 次区画と同じ IPL モードを割り当てます。その後で、2 次区画の IPL を再試行します。問題が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: サービス提供元に連絡するため、この問題の製品活動ログ (PAL) エントリから詳細な 16 進データを収集します。</p>
B2xx 1260	<p>原因: 2 次区画で、指定時刻に電源オン (TPO) の設定値に到達しましたが、キーロックが「自動 (Automatic)」または「通常 (Normal)」に設定されていませんでした。IPL は終了します。</p> <p>回復処置: 「システム区画の処理」画面に移動して、キーロックを現在の設定である「手動 - 保護 (Manual-Secure)」から「通常 - 自動 (Normal-Automatic)」に変更します。その後で、2 次区画の IPL を再試行します。問題が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: サービス提供元に連絡するため、この問題の製品活動ログ (PAL) エントリから詳細な 16 進データを収集します。</p>
B2xx 1310	<p>原因: 代替 (D モード) IPL 装置の IOP が選択されていません。IPL は続行しようとしていますが、正しい D モードの IPL 装置を検出する情報が不十分である可能性があります。</p> <p>回復処置: 「システム区画の処理」画面に移動して、2 次区画の代替 IPL の IOP を構成します。その後で、2 次区画の IPL を再試行します。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: サービス提供元に連絡するため、この問題の製品活動ログ (PAL) から詳細な 16 進データを収集します。</p>

SRC	情報
B2xx 1320	<p>原因: A モードまたは B モードの IPL に対し、デフォルトの IPL 装置 IOP が選択されていません。IPL は続行しようとしませんが、正しい IPL 装置を検出する情報が不十分である可能性があります。</p> <p>回復処置: 「システム区画の処理」画面に移動して、2 次区画の IPL 装置 IOP を構成します。その後で、2 次区画の IPL を再試行します。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: サービス提供元に連絡するため、この問題のプロダクト活動ログ (PAL) から詳細な 16 進データを収集します。</p>
B2xx 3110	<p>原因: 有効な 2 次区画コードに対して、すべての IPL 装置候補がスキャンされました。しかし、すべての状況でエラーが検出されたため、IPL ディスク装置候補として使用することができません。IPL は終了されました。</p> <p>回復処置: 検出された各問題に対処し、2 次区画の IPL を再試行します。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: 2 次区画の SRC ヒストリー・リストで、前の B2ppxxxx 障害 SRC (pp は区画 ID) をスキャンし、問題の原因を特定します。</p>
B2xx 3125	<p>原因: 初期の IPL オブジェクトのメモリー配分に失敗しました。1 次区画のメモリーが不十分です。IPL のシーケンスは同じ装置に対して再試行されます。</p> <p>回復処置: 1 次区画に十分な主記憶域がない場合は、1 つ以上の 2 次区画から主記憶域の一部を取り除いて、これを 1 次区画へ追加します。1 次区画の主記憶域が十分にある場合は、IPL を再試行します。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: 2 次区画の IPL を実行するうえで十分な主記憶域の容量を 1 次区画が利用できるようにします。</p>
B2xx 3130	<p>原因: 指定されたバス番号のバスのオブジェクトが検出されませんでした。IPL は続行しようとしませんが、このバスのアドレスにある、後続のすべての IPL 装置がスキップされます。</p> <p>回復処置: ワード 3 がゼロの場合、SRC は通知目的であり、無視できます。ゼロ以外のバス番号に関連するバスのオブジェクトはありません。問題を解決するには、サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: ワード 3 の値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ワード 3: バスのアドレス情報 <p>この値は、エラーを起こしたハードウェアを識別するのに役立ちます。</p>
B2xx 3135	<p>原因: トランспорт・マネージャーのバスのオブジェクト・タイプは、SPD でも PCI でもありません。把握されているバスのタイプは、RIO、SAN、および Virtual のみであり、これらのタイプはいずれも LPAR IPL 装置として使用される IPL モードをサポートしていません。バス全体がスキップされます。IPL は続行しようとしません。</p> <p>回復処置: 問題を解決するには、サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: ワード 3 の値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ワード 3: バスのアドレス情報 <p>この値は、エラーを起こしたハードウェアを識別するのに役立ちます。</p>

SRC	情報
B2xx 3200	<p>原因: IOP に対して、選択された IPL 装置を検索し、IOP 自体をロードまたはリセットするように指示するコマンド (セルフ・ロードの開始) が送信されましたが、失敗しました。IPL は続行しようとしませんが、障害のタイプによっては、IPL 装置が再試行されたり、スキップされる場合があります。</p> <p>回復処置: PAL で、ワード 3 ~ 6 で指定された装置ロケーションに関する SRC を検索します。見つかった問題に対して回復処置を実行します。その後で、2 次区画の IPL を再試行します。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: ワード 3 ~ 6 の値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ワード 3: バスのアドレス情報 • ワード 4: ボードのアドレス情報 • ワード 5: カードのアドレス情報 • ワード 6: 装置のアドレス情報 <p>これらの値は、エラーを起こしたハードウェアを識別するのに役立ちます。</p>
B2xx 4310	<p>原因: IPL 装置のハードウェア・ドライブに HRI オブジェクトがありません。IPL は、指定された IPL 装置から IPL 全体のシーケンスを再試行しようとしします。</p> <p>回復処置: この SRC が原因で IPL が失敗した場合は、1 次区画の MSD を取り込んで、サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: ワード 3 の値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ワード 3: バスのアドレス情報 • ワード 4: ボードのアドレス情報 • ワード 5: カードのアドレス情報 • ワード 6: ユニットのアドレス情報 <p>この値は、エラーを起こしたハードウェアを識別するのに役立ちます。</p>
B2xx 4312	<p>原因: 予期された IPL 装置候補装置の論理装置ロケーションと、実際に入手された IPL 装置候補装置との間でミスマッチが起きました。IPL は、指定された IPL 装置 から IPL 全体のシーケンスを再試行しようとしします。</p> <p>回復処置: この SRC が原因で IPL が失敗した場合は、1 次区画の MSD を取り込んで、サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: ワード 3 の値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ワード 3: バスのアドレス情報 • ワード 4: ボードのアドレス情報 • ワード 5: カードのアドレス情報 • ワード 6: 装置のアドレス情報 <p>この値は、エラーを起こしたハードウェアを識別するのに役立ちます。</p>
B2xx 4315	<p>原因: 1 次区画に記憶域を割り振ろうとしているときに障害が起きました。</p> <p>回復処置: 1 次区画に十分な主記憶域がない場合は、1 つ以上の 2 次区画から主記憶域の一部を取り除いて、これを 1 次区画へ追加します。</p> <p>問題分析手順: 十分なメモリーが 1 次区画にあることを確認します。2 次区画の IPL を再試行してください。</p>

SRC	情報
B2xx 4320	<p>原因: 間違った種類の 1 次 IPL 装置が報告されました。IPL は、この装置に対する後続の試行をすべてスキップすることで、続行しようとしています。</p> <p>回復処置: 2 次区画のハードウェア構成を確認してください。</p> <p>問題分析手順: 装置が正しいロケーションにあることを確認してください。</p>
B2xx 4321	<p>原因: 間違った種類の代替 IPL 装置が報告されました。IPL は、この装置に対する後続の試行をすべてスキップすることで、続行しようとしています。</p> <p>回復処置: 2 次区画のハードウェア構成を確認してください。</p> <p>問題分析手順: 装置が正しいスロットにあることを確認してください。</p>
B2xx 5106	<p>原因: 主記憶域ダンプの一時セグメントの作成に失敗しました。この障害の原因として、1 次区画にあるメモリーを使い果たしたことなどがあります。これは一時的な状況であると仮定し、同じ装置のアドレスに対して IPL が再試行されます。</p> <p>回復処置: 1 次区画に十分な主記憶域がない場合は、1 つ以上の 2 次区画から主記憶域の一部を取り除いて、これを 1 次区画へ追加します。1 次区画の主記憶域が十分にある場合は、IPL を再試行します。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: 2 次区画の IPL を実行するうえで十分な主記憶域の容量を 1 次区画が利用できるようにします。</p>
B2xx 5114	<p>原因: 2 次 IPL 装置は、ダンプの最小サイズより小さい MSD を割り振りました。ダンプを取り込むことができません。IPL は終了します。</p> <p>回復処置: サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: サービス提供元に連絡するため、この問題のプロダクト活動ログ (PAL) エントリから詳細な 16 進データを収集します。サービス提供元に連絡してください。</p>
B2xx 5115	<p>原因: IPL 装置からのロードに失敗しました。IPL は同じ IPL 装置に IPL 全体のシーケンスを再試行することによって、続行しようとしています。</p> <p>回復処置: この SRC によって 2 次区画の IPL の続行が妨げられている場合、ワード 3 ~ 6 で指定されたロケーションにある IPL 装置で問題を見つけます。検出された問題を修正した後に、2 次区画の IPL を再試行してください。</p> <p>問題分析手順: ワード 3 ~ 6 の値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ワード 3: バスの情報 • ワード 4: ボードの情報 • ワード 5: カードの情報 • ワード 6: 装置の情報 <p>これらの値は、エラーを起こしたハードウェアを識別するのに役立ちます。</p> <p>サービス提供元に連絡するため、この問題のプロダクト活動ログ (PAL) から詳細な 16 進データを収集します。</p>

SRC	情報
B2xx 5117	<p>原因: MSD または CPM の IPL が発生しましたが、有効なダンプがすでに存在するため、現在の情報を IPL 装置に書き込むことができません。現在の MSD または CPM 情報は失われ、IPL は終了されます。</p> <p>回復処置: 2 次区画の IPL を前の専用保守ツール (DST) で実行し、IPL 装置上の古い MSD または CPM 情報を無効にします。こうすると、MSD または CPM ダンプを保存できます。</p> <p>問題分析手順: SRC で示された区画識別番号 (xx) を使用して、問題のある区画を特定します。</p>
B2xx 5121	<p>原因: MSD または CPM の IPL が発生しましたが、有効なダンプがすでに存在するため、現在の情報を IPL 装置に書き込むことができません。現在の MSD または CPM 情報は失われ、IPL は終了されます。</p> <p>回復処置: 2 次区画の IPL を前の専用保守ツール (DST) で実行し、IPL 装置上の古い MSD または CPM 情報を無効にします。こうすると、MSD または CPM ダンプを保存できます。</p> <p>問題分析手順: プロダクト活動ログ (PAL) から詳細な 16 進データを収集し、検出された問題を修正してください。</p>
B2xx 5135	<p>原因: MSD または CPM 主記憶ページの書き込み中に、DASD 書き込み操作が失敗しました。フェーズ II の情報の一部がダンプにある可能性があり、MSD または CPM の IPL は続行します。</p> <p>回復処置: 指定されたロケーションの DASD に関連するプロダクト活動ログ (PAL) から詳細な 16 進データを収集します。検出された潜在的問題を修正してください。これは、修正が必要な DASD、IOP、またはバスの問題の兆候である可能性があります。</p> <p>問題分析手順: 理由コードを SRC のワード 3 ~ 9 から識別します。考えられる理由コードの値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ワード 3: バスのアドレス情報 • ワード 4: ボードのアドレス情報 • ワード 5: カードのアドレス情報 • ワード 6: 装置のアドレス情報 • ワード 7: 操作中に書き込まれたページ数 • ワード 8: 装置のページの位置 • ワード 9: DASD ハードウェア・ドライバの戻りコード <p>他の理由コードについては、サービス提供元に連絡してください。</p>

SRC	情報
B2xx 5145	<p>原因: フェーズ II 中に MSD または CPM バスの SID 82 LID の保管に失敗しました。ほとんどの場合、フェーズ II の情報はダンプにはありませんが、MSD または CPM の IPL は続行します。</p> <p>回復処置: 指定されたロケーションの DASD に関連するプロダクト活動ログ (PAL) から詳細な 16 進データを収集します。検出された潜在的問題を修正してください。これは、修正が必要な DASD、IOP、またはバスの問題の兆候である可能性があります。</p> <p>問題分析手順: 理由コードを SRC のワード 3 ~ 6 から識別します。考えられる理由コードの値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ワード 3: バスのアドレス情報 • ワード 4: ボードのアドレス情報 • ワード 5: カードのアドレス情報 • ワード 6: 装置のアドレス情報 <p>他の理由コードについては、サービス提供元に連絡してください。</p>
B2xx 5148	<p>原因: システムがすでに MSD または CPM の回復 IPL を実行している間に MSD が発生しました。最初のダンプはすでにコピーされたか、または消去されました。2 番目のダンプは 2 次 IPL 装置の SID 82 へ正常に保管されましたが、2 次区画は IPL を実行しません。</p> <p>回復処置: サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: 理由コードを SRC のワード 3 ~ 6 から識別します。考えられる理由コードの値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ワード 3: バスのアドレス情報 • ワード 4: ボードのアドレス情報 • ワード 5: カードのアドレス情報 • ワード 6: 装置のアドレス情報 <p>他の理由コードについては、サービス提供元に連絡してください。</p>
B2xx 6012	<p>原因: 2 次区画の LID が、区画の主記憶域へ正常にロードされました。しかし、実際の LID が区画のロード域へ完全に含まれていなかったことがその後分かり、メモリーの損傷または破壊が起こった可能性があります。IPL は終了されます。</p> <p>回復処置: サービス提供元に連絡してください。2 次区画の IPL 装置が壊れています。IPL 装置が DASD である場合は、再インストールが必要な場合があります。</p> <p>問題分析手順: 理由コードを SRC のワード 3 ~ 6 から識別します。考えられる理由コードの値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ワード 3: バスのアドレス情報 • ワード 4: ボードのアドレス情報 • ワード 5: カードのアドレス情報 • ワード 6: 装置のアドレス情報 <p>他の理由コードについては、サービス提供元に連絡してください。</p>

SRC	情報
B2xx 6015	<p>原因: 区画のロード・データ域の取得に失敗しました。IPL はこの装置をスキップすることで操作を続行し、その後の IPL 装置候補の装置を試行します。</p> <p>回復処置: この問題は、IPL 装置メディアが無効または破損していることから起きた可能性があります。回復にはおそらく、2 次区画のライセンス内部コードの再インストールが必要になります。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: サービス提供元に連絡するため、この問題のプロダクト活動ログ (PAL) から詳細な 16 進データを収集します。</p>
B2xx 6025	<p>原因: ロード ID に対し、無効なメモリーがロードされています。IPL はこの IPL 装置の候補をスキップし、次の候補を試行することで続行しようとしています。</p> <p>回復処置: この問題は、IPL 装置メディアが無効または破損していることから起きた可能性があります。回復にはおそらく、2 次区画のライセンス内部コードの再インストールが必要になります。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: サービス提供元に連絡するため、この問題のプロダクト活動ログ (PAL) から詳細な 16 進データを収集します。</p>
B2xx 6027	<p>原因: 1 次区画のメモリーが少ない状態であることが、この SRC の最もよくある原因です。同じ装置のアドレスに対して IPL 全体のシーケンスが再試行されます。</p> <p>回復処置: 1 次区画に十分な主記憶域がない場合は、1 つ以上の 2 次区画から主記憶域の一部を取り除いて、これを 1 次区画へ追加します。1 次区画の主記憶域が十分にあり、メモリー・リークがない場合は、操作を再試行します。</p> <p>問題分析手順: この区画に十分な主記憶域が割り当てられており、メモリー・リークがないことを確認してから操作を再試行します。</p>
B2xx 7111	<p>原因: 2 次 IPL 装置に、関連する IOP ハードウェア・ドライバーがありません。</p> <p>回復処置: 1 次区画の MSD を取り込んでください。問題を解決するには、サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: 問題を解決するには、サービス提供元に連絡してください。</p>
B2xx 7115	<p>原因: 1 次区画からの IOP ハードウェア・ドライバー (現在の IPL 装置でない) の除去に失敗しました。IPL は操作を続行しようとしていますが、2 次区画がこの IOP との接続を確立できない場合がほとんどです。</p> <p>回復処置: 2 次区画が使用するよう指定された IOP を回復するには、2 次区画の別の IPL 実行が必要な場合があります。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: エラーの原因を判断するために、ワード 3 ~ 5 の値を識別します。ワードの値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ワード 3: バスのアドレス情報 • ワード 4: ボードのアドレス情報 • ワード 5: カードのアドレス情報

SRC	情報
B2xx 7117	<p>原因: 現在の IPL 装置に関連付けられている IOP ハードウェア・ドライバーの除去に失敗しました。IPL は続行されません。</p> <p>回復処置: 指定された IOP アドレスに関連するプロダクト活動ログ (PAL) から詳細な 16 進データを収集します。PAL の SRC の回復処置に従い、検出された問題を修正してください。2 次区画の IPL を再試行してください。1 次区画の IPL を実行するには、IOP の制御の回復が必要となる場合があります。</p> <p>問題分析手順: 理由コードを SRC のワード 3 ~ 6 から識別します。考えられる理由コードの値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ワード 3: バスのアドレス情報 • ワード 4: ボードのアドレス情報 • ワード 5: カードのアドレス情報 • ワード 6: IOP の戻りコード <p>他の理由コードについては、サービス提供元に連絡してください。</p>
B2xx 7200	<p>原因: VSP モードの終了コマンド (PCI のみのバス・コマンド) を IPL 装置の IOP に送信しようとしたときに、エラー状態が検出されました。</p> <p>回復処置: 指定された IOP アドレスに関連するプロダクト活動ログ (PAL) から詳細な 16 進データを収集します。PAL の SRC の回復処置に従い、検出された問題を修正してください。2 次区画の IPL を再試行してください。1 次区画の IPL を実行するには、IOP の制御の回復が必要となる場合があります。</p> <p>問題分析手順: 理由コードを SRC のワード 3 ~ 5 から識別します。考えられる理由コードの値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ワード 3: バスのアドレス情報 • ワード 4: ボードのアドレス情報 • ワード 5: カードのアドレス情報 <p>他の理由コードについては、サービス提供元に連絡してください。</p>
B2xx 8105	<p>原因: 2 次区画の主記憶域のデータ構造の初期化に失敗しました。IPL は終了されます。</p> <p>回復処置: この問題は、IPL 装置メディアが無効または破損していることから起きた可能性があります。回復にはおそらく、2 次区画のライセンス内部コードの再インストールが必要になります。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: サービス提供元に連絡するため、この問題のプロダクト活動ログ (PAL) から詳細な 16 進データを収集します。</p>
B2xx 8107	<p>原因: ライセンス内部コードのイベント・メッセージに対し、主記憶域を割り当てることができませんでした。これは、1 次区画の主記憶域の空きが少ないことを示しています。IPL は終了されます。</p> <p>回復処置: 1 次区画に十分な主記憶域がない場合は、1 つ以上の 2 次区画から主記憶域の一部を取り除いて、これを 1 次区画へ追加します。</p> <p>問題分析手順: 2 次区画の IPL を実行するのに十分な主記憶域が 1 次区画にあることを確認します。</p>

SRC	情報
B2xx 8115	<p>原因: ライセンス内部コードのセッション・マネージャーの接続で、一部またはすべての接続を開くことができませんでした。IPL は操作を続行しますが、接続のいくつかは機能しない場合があります。</p> <p>回復処置: ライセンス内部コードのセッション・マネージャーの接続を回復するには、2 次区画の別の IPL の実行が必要になる場合があります。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: サービス提供元に連絡するため、この問題のプロダクト活動ログ (PAL) から詳細な 16 進データを収集します。</p>
1 B600 5310	<p>原因: 論理区画構成データに整合性エラーがあります。サーバーは、この論理区画構成データの作業用コピーを見つけることができません。</p> <p>回復処置: サービス提供元に連絡してください。問題が訂正されるまで、サーバーは、前の専用保守ツール (DST) の IPL を続行しません。</p> <p>問題分析手順: サービス提供元に連絡するため、この問題のプロダクト活動ログ (PAL) から詳細な 16 進データを収集します。</p>
1 B600 5311	<p>原因: 論理区画構成データが、現在のサーバー構成と一致しません。次の説明が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 以前に論理区画の IPL 装置だった非構成ディスク装置がある。 • IPL 装置構成データと使用する論理区画が一致していない。 • IPL 装置構成データと使用するサーバーの製造番号が一致していない。 • 1 次区画の構成データよりも、IPL 装置の構成データのほうが新しい。 <p>回復処置: 次のいずれかを実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IPL 装置が誤って置き換えられている場合には、元に戻してサーバーを再始動してください。 • IPL 装置が 1 次区画のものである場合には、論理区画構成データを回復してください。 • 指定された IPL 装置が 2 次区画のものである場合には、その 2 次区画の IPL 装置として、ディスクを受け入れてください。 • 指定されたディスク装置が構成済みでない場合には、非構成の IPL 装置を消去し、サーバーで新しいディスク装置を使用してください。 • 論理区画のあるサーバーから IPL ディスク装置を移動したものの、現在のサーバーに論理区画がない場合は、すべての区画構成データを消去してください。これにより、すべての 2 次区画が削除されます。 • 区画化されたサーバーからの IPL 装置を使用して区画 IPL を実行してしまった場合は、いずれの措置も実行しないでください。インストール中にディスクの初期化処理を行うと、既存の構成データは消去されます。 <p>上のいずれかの処置によって問題が解決するまで、前の DST の IPL は行われません。</p> <p>問題分析手順: サービス提供元に連絡するため、この問題のプロダクト活動ログ (PAL) エントリーから詳細な 16 進データを収集します。</p>
1 B600 5312	<p>原因: サーバーは論理区画の構成データに矛盾を検出し、訂正しました。消失したデータはありません。これは通知用の表示です。</p> <p>回復処置: なし</p> <p>問題分析手順: エラーが繰り返し生じなければ、特に必要ありません。サービス提供元に連絡するため、これらの問題のプロダクト活動ログ (PAL) エントリーから詳細な 16 進データを収集します。</p>

SRC	情報
1 B600 5313	<p>原因: サーバーが論理区画の構成データの矛盾を見つけました。最後に更新された構成データが消失するため、問題を訂正できません。</p> <p>回復処置: 構成データの妥当性検査を手動で行い、欠落している構成操作があれば繰り返します。</p> <p>問題分析手順: エラーが繰り返し生じなければ、特に必要ありません。サービス提供元に連絡するため、これらの問題のプロダクト活動ログ (PAL) エントリーから詳細な 16 進データを収集します。</p>
1 B600 5340	<p>原因: 論理区画が、要求された数よりも少ない数のプロセッサで実行されています。</p> <p>回復処置: 1 次区画に記録されているプロセッサ固有のエラーについて、回復を実行してください。</p> <p>問題分析手順: 1 次区画のプロダクト活動ログ (PAL) で、訂正する必要があるハードウェア・エラーを示す SRC を調べてください。</p>
1 B600 5341	<p>原因: 論理区画が、要求されたよりも少ない容量の主記憶域で実行されています。</p> <p>回復処置: 1 次区画に記録されている主記憶域固有のエラーについて、回復を実行してください。</p> <p>問題分析手順: 1 次区画のプロダクト活動ログ (PAL) で、訂正する必要があるハードウェア・エラーを示す SRC を調べてください。</p>
B600 5342	<p>原因: 論理区画で、プロセッサの数が不足しています。論理区画プロセッサの最小数を満たすことができませんでした。</p> <p>回復処置: すべてのリソースが一時的に 1 次区画に割り当てられています。1 次区画に記録されているプロセッサ固有のエラーの回復を実行してください。</p> <p>問題分析手順: プロダクト活動ログ (PAL) で、ハードウェア・エラーを検査してください。</p>
B600 5343	<p>原因: 論理区画で、メモリーの量が不足しています。論理区画メモリーの最小量を満たすことができませんでした。</p> <p>回復処置: すべてのリソースが一時的に 1 次区画に割り当てられています。1 次区画に記録されているメモリー固有のエラーの回復を実行してください。</p> <p>問題分析手順: プロダクト活動ログ (PAL) で、ハードウェア・エラーを検査してください。</p>
B600 5344	<p>原因: 論理区画で、対話式パフォーマンスの量が不足しています。論理区画の対話式パフォーマンスの最小量を満たすことができませんでした。</p> <p>回復処置: すべてのリソースが一時的に 1 次区画に割り当てられています。1 次区画に記録されている対話式パフォーマンス固有のエラーの回復を実行してください。</p> <p>問題分析手順: プロダクト活動ログ (PAL) で、ハードウェア・エラーを検査してください。</p>

SRC	情報
1 B600 5350	<p>原因: 論理区画のソフトウェアのバージョンは、サポートされている 2 次区画のリリースのの違いの範囲を超えています。</p> <p>回復処置: 次のいずれかを実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題のある論理区画に、サポートされているバージョンのオペレーティング・システムをインストールする。 問題のある論理区画に入っているバージョンをサポートしているバージョンのオペレーティング・システムを 1 次区画インストールする。 <p>問題分析手順: 論理区画のリリース・レベルを表示し、論理区画のリリースの違いを調べてください。</p>
1 B600 5380	<p>原因: 論理区画管理コードで予期しないイベントが発生しましたが、エラーから回復しました。</p> <p>回復処置: これらのエラーが何度も生じる場合には、サービス提供元に連絡してください。</p> <p>問題分析手順: サービス提供元に連絡するため、この問題のプロダクト活動ログ (PAL) エントリから詳細な 16 進データを収集します。</p>
1 B600 5390	<p>原因: 論理区画管理コードで予期しないイベントが発生し、エラーから回復することができませんでした。論理区画の構成をさらに変更することは、不可能になる場合があります。</p> <p>回復処置: 次のいずれかを実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ハードウェアのアップグレードまたは新規リリースのインストールにより、区画のメモリー値の調整が必要となる場合があります。 サービス提供元に連絡してください。 <p>問題分析手順: サービス提供元に連絡するため、この問題のプロダクト活動ログ (PAL) エントリから詳細な 16 進データを収集します。</p>

サーバーに論理区画があるかどうかの判別

すべてのシステムは、1 次区画付きで出荷されます。ユーザーが現在実行しているハードウェアおよびリリースに応じて、システムに論理区画を作成することができます。

V5R1 またはそれ以降のリリースにおいて、サーバーに論理区画があるかどうかを判別するには、次のステップを実行します。

1. iSeries ナビゲーターを使用して、「ユーザー接続」を選択します。
2. 作業する物理システムを展開します。
3. 「構成およびサービス」を選択し、「論理区画」を選択します。
 - システムに論理区画がある場合、システムのすべての区画がリストされます。
 - システムに論理区画がない場合は、サーバーに区画を作成することができます。

論理区画のシステム参照コード (SRC)

システム参照コード (SRC) は、コントロール・パネル、プロダクト活動ログ (PAL)、主記憶域ダンプ管理プログラム画面、iSeries ナビゲーター内、または DST や SST 内のさまざまな画面で表示することができます。

SRC は 9 つの「ワード」から構成されており、そのワードに対応するコントロール・パネル機能にアクセスすることにより表示することができます。2 次区画の SRC は、仮想コントロール・パネルで検出されます。ワードは通常 8 つの 16 進文字 (0 ~ 9 および A ~ F) から構成されています。この機能は特定の SRC のワードを表すコントロール・パネルの機能と対応しています。

V4R5 およびそれ以降のリリース

iSeries サーバーには、同時に最大 4 ワードを表示できるコントロール・パネルがあります。さらに、SRC の最初のワードはどの ASCII 文字にでもすることができます。しかし SRC の他の 8 ワードは、16 進データから構成されます。

機能 11 では以前と同じように SRC の最初の文字が表示されます。ただし、最初のワードに 8 から 32 文字までを含めることができます。

同時に SRC を最大 4 ワードを表示できるため、ワード表示に使用する機能は、V4R5 およびそれ以降のリリースでは異なります。機能 11 から 13 では SRC の 9 ワードすべてが表示されます。機能 14 から 19 は利用できません。

PAL および他のソフトウェア画面では、SRC が以前のリリースと同じように表示されます。違いは、最初のワードに最大 32 文字のテキストを含めることができるという点です。さらにその他の相違点としては、ワード番号は 11 から 19 ではなく、1 から 9 までになります。これにより、検索に使用する機能番号とワード番号の混同を防止することができます。

V4R5 およびそれ以降のリリースの SRC は次のように表示されます。

機能	ワード
11	1
	拡張ワード 1
	拡張ワード 1
	拡張ワード 1
12	2
	3
	4
	5
	6
13	7
	8
	9

V4R4

V4R4 のハードウェアおよびソフトウェアについては、ワード番号はワード番号と対応する機能番号と同じです。たとえば、SRC のワード 11 は機能 11 ということになります。

PAL および他のソフトウェア画面では、SRC が 9 行の 16 進データとして表示されます。各行は 1 つの機能を表し、ワード番号が 16 進データの前に表示されます。

V4R4 以前のリリースのワードと機能の全リストは次のとおりです。

機能	ワード
11	11
12	12
12	13
14	14
15	15
16	16
17	17
18	18
19	19

論理区画のプロダクト活動ログ (PAL) の表示

プロダクト活動ログ (PAL) を使用することで、ログに記録されたシステム、ライセンス内部コード、ソフトウェア・コンポーネント、および入出力装置のデータを表示したり、印刷することができます。また、データの要約が提供され、参照コードの説明が表示されるほか、取り外し可能なメディアの統計での作業や、データのソートが可能になります。

ほとんどの SRC は、その SRC が表示される原因となった論理区画の PAL に表示されます。しかし、SRC には他のすべての区画の制御権限があるため、1 次区画の PAL にしか表示されない SRC があります。たとえば、プロセッサまたは主記憶域の問題による SRC は 1 次区画の PAL に表示されます。

希望する区画で専用保守ツール (DST) またはシステム保守ツール (SST) から、プロダクト活動ログ (PAL) を表示することができます。

- DST からは、次のステップを実行します。
 1. オプション 7 (保守ツールの開始) を選択します。
 2. オプション 6 (プロダクト活動ログ) を選択します。
- SST からは、次のステップを実行します。
 1. オプション 1 (保守ツールの開始) を選択します。
 2. オプション 1 (プロダクト活動ログ) を選択します。

重要: 必ず、すべてのエントリーを表示するように選択してください。

PAL についての詳細は、「Communications Management」 を参照してください。

各論理区画のシステム参照コードの検出

システムの各論理区画はそれぞれ独自の SRC セットを表示します。各区画は、独立したシステムとして動作し、それぞれ独自の SRC セットを生成します。

各論理区画の参照コードを表示するには、次のステップを実行します。

1. iSeries ナビゲーターで、「マネージメント・セントラル」を展開します。
2. 「区画があるシステム」を展開します。
3. 処理する論理区画がある物理システムを選択します。

4. 論理区画を右マウス・ボタンでクリックし、「プロパティ」を選択します。
5. 「参照コード」ページを選択し、最近使用した 200 のシステム参照コードのリストを表示します。
6. このフィールドについての詳細情報が必要な場合は、「ヘルプ」をクリックします。
7. 「OK」をクリックします。

「ユーザー接続」を使用して論理区画のシステム参照コード・履歴を表示するには、次のステップを実行します。

1. iSeries ナビゲーターで、「ユーザー接続」またはアクティブな環境を展開します。
2. このシステムの 1 次区画を選択します。
3. 「構成およびサービス」を展開し、「論理区画」を選択します。
4. 「論理区画」を右マウス・ボタンでクリックし、「プロパティ」を選択します。
5. 「参照コード」ページを選択し、最近使用した 200 のシステム参照コードのリストを表示します。
6. このフィールドについての詳細情報が必要な場合は、「ヘルプ」をクリックします。
7. 「OK」をクリックします。

保守ツール・ウィンドウを使用して論理区画のシステム参照コード・履歴を表示するには、次のステップを実行します。

1. iSeries ナビゲーターで、「ユーザー接続」またはアクティブな環境を選択します。
2. 「タスクパッド」ウィンドウで「**iSeries ナビゲーター保守ツール**」ウィンドウをオープンします」を選択します。「タスクパッド」ウィンドウが表示されない場合は、「表示」を選択し、「タスクパッド」を選択します。
3. 接続する保守ツール・ネットワーク・インターフェースの **IP アドレス**を入力します。「OK」をクリックします。
4. **保守ツール・ユーザー ID** および**ユーザー・パスワード**を入力するようにプロンプトが出されます。
5. システム名を展開し、「論理区画」を選択します。
6. 論理区画を右マウス・ボタンでクリックし、「プロパティ」を選択します。
7. 「参照コード」ページを選択し、最近使用した 200 のシステム参照コードのリストを表示します。
8. このフィールドについての詳細情報が必要な場合は、「ヘルプ」をクリックします。
9. 「OK」をクリックします。

このパネルは、最近使った 200 のシステム参照コードのリストを、日時の新しいものから古いものへの順序に並べて表示します。論理区画に関連する共通の SRC および回復処置のリストの検索については、『論理区画のシステム参照コードの解決』を参照してください。

論理区画のシステム参照コードの解決

『論理区画 SRC ファインダー』を使用して、SRC として報告される論理区画の問題に対する解決策を見つけることもできます。

論理区画のあるサーバーで構成データにエラーが起きると、次のような内容が表示されます。

- 通常モードの IPL を実行している場合には、コントロール・パネルに、システム参照コード (SRC) 1 A600 5090 および 3 0026 0000 が表示されます。手動モードの IPL を使用して、サーバーを再始動してください。特定の SRC がないかどうかプロダクト活動ログ (PAL) を検査します。
- 手動モードの IPL を実行する場合には、次のメッセージが表示されます。

- 専用保守ツール (DST) のサインオン画面ではなく、「装置の論理区画構成が正しくありません (Unit has incorrect logical partition configuration)」というメッセージが表示されます。
- 「システム区画の処理」画面の下に、「構成データ・エラーが見つかりました - プロダクト活動ログを参照してください (Configuration data errors detected - see Product Activity Log)」というメッセージが表示されます。

プロダクト活動ログ (PAL) に、特定のシステム参照コード (SRC) があるかどうかを調べてください。

論理区画のエラー・メッセージおよび報告書

サーバーが論理区画のエラーを検出すると、次のいずれかの方法で通知します。

- エラー・メッセージ (16 参照)が、画面の下部に表示される。
- 「論理区画エラー報告書 (Logical Partitioning Error Report) (31 参照)」画面がシステム・コンソールに表示される。

画面下部の論理区画エラー・メッセージ

このリストには、論理区画の緑色の画面インターフェースに固有のエラー・メッセージが含まれています。これらのメッセージは通常、画面の下に表示されます。

論理区画に関連しないエラー・メッセージについては、「システム操作の基本」を参照してください。

以下の情報は、各エラー・メッセージとエラーの発生した理由をリストしたものです。回復処置が含まれているものもあります。

コンソール・リソースを選択してから、代替コンソールを選択してください

代替コンソール・リソースを選択するにはまず、メイン・コンソール・リソースを選択する必要があります。メイン・コンソールと代替コンソールを同じリソースにすることができます。

IPL ディスク装置の受け入れに失敗しました

構成データの回復処置中に論理区画構成管理プログラムで内部エラーが発生しました。サービス提供元に連絡してください。

IPL ディスク装置の受け入れに失敗しました - データが見つかりません

論理区画の構成データが存在しません。1 次区画からリソースを除去し、新しい 2 次区画にリソースを割り当てるなどの、サーバーの変更処理が行われていません。サーバーは要求された処置を実行しませんでした。

IPL ディスク装置の受け入れが実行されませんでした - データは保護されません

サーバーは、この区画の IPL ディスク装置に保存されている論理区画構成データでの問題を検出しません。受け入れ操作は実行されません。

リモート保守の活動化に失敗しました

パネル・タスクに障害が発生しました。要求を再試行してください。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。

I/O リソースの追加に失敗しました

内部エラーが発生しました。サーバーは、ユーザーが追加した IOP を利用可能なリソースとして検出しませんでした。現在 IOP は該当する区画に割り当てられていません。サービス提供元に連絡してください。

OS/400 に変更するとき、構成値を調整します

これは通知目的のメッセージです。

代替コンソール IOP の選択に失敗しました

内部エラーが発生しました。サーバーは区画に割り当てられたリソースの一覧と IOP を関連付けるできませんでした。0C00 C9FF エントリーがないかどうか、ライセンス内部コードのログを検査してください。

代替コンソール IOP の選択は成功しましたが、コンソールの IOP がまだ選択されていません

これは警告メッセージです。この区画に対するコンソールの IOP を選択する必要があります。詳細については、サービス提供元に連絡してください。

代替 IPL IOP の選択に失敗しました

内部エラーが発生しました。サーバーは区画に割り当てられたリソースの一覧と IOP を関連付けるできませんでした。0C00 C9FF がエントリーされていないかどうか、ライセンス内部コードのログを検査してください。

代替 IPL IOP の選択は成功しましたが、光ディスク装置がサポートされていません

2 次区画の代替 IPL の IOP の選択には成功しました。その種類のリソースは光ディスク装置をサポートしていません。磁気テープ装置は使用することができます。

代替 IPL IOP の選択は成功しましたが、磁気テープ装置がサポートされていません

2 次区画の代替 IPL の IOP の選択は成功しました。その種類のリソースは磁気テープ装置をサポートしていません。CD-ROM 装置は使用することができます。

バス xxx はすでに割り当てられています

区画はすでにそのバスを使用しています。バス所有権のタイプを変更する場合は、「区画構成の処理」画面のオプション 5 (バス所有権タイプの変更 (Change bus ownership type)) を選択します。

バス xxx は割り当てられていません

バスを除去したり、変更することはできません。また、区画が現在バスを所有していないため、IOP を追加することはできません。現在バスを所有している論理区画は他にありません。

バス xxx は利用できません

追加しようとしたバスは、他の区画が共用モードで所有しています。バスを所有せずに、バスを使用することができます。

バス xxx の所有権タイプを変更できません

このバスは共用モードに変更できない特別なタイプです。サービス・プロセッサを含む仮想 OptiConnect バスまたは 1 次バスがこのカテゴリーに分類されます。

バスの割り当てが必要です

ある区画がバスを所有しない限り、そのバスを別の区画が共用モードで使用することはできません。別の区画でバスを使用する前に、所有共用の状況をもつバスを区画に追加します。

バス xxx の所有者が必要です

IOP を選択する前に、バスを区画に割り当てる必要があります。

別の区画によって所有されているため、バス xxx の所有権を変更できません

バスは別の区画によって使用されているため、バス状況を変更できません。現在要求されている処置に進む前に、バスの使用を解除してください。

システム MSD の IPL 中は、要求されたパネル機能 22 を実行できません

この区画は現在、主記憶域のダンプを実行しています。他の機能はまだ実行できません。

要求されたパネル機能は、現在、実行できません

サーバーは内部処理 (2 次区画の初期 IPL など) を実行しているため、要求されたパネル機能を受け入れることができません。時間をおいてから要求を再試行してください。

要求されたパネル機能を実行できません。区画を手動モードにする必要があります

このエラーは、手動モードに設定されていない区画の「区画状況の処理」画面で、オプション 10 を使用しようとした場合に発生します。オプション 10 を実行するには、区画を手動モードに設定してから再始動します。

システムが保護モードの間は、要求されたパネル機能を実行できません

このエラーは、保護モードに設定されている 2 次区画の「区画状況の処理」画面で、パネル機能を使用しようとしたときに発生します。2 次区画が保護モードに設定されている場合、1 次区画の DST コンソールの「区画状況の処理」画面からのみ、そのパネル機能を実行できます。保護モードから別のモードに 2 次区画を変更すると、その 2 次区画でパネル機能が使用できます。

予約済みの 1 次区画の名前は使用できません

2 次区画の名前に「PRIMARY」を使用しようとした。この名前は 1 次区画専用で予約されています。別の名前を入力してください。

バス所有権タイプの変更に失敗しました

サーバー上の情報は、区画がバスを所有または使用していないことを示しています。このため、所有権タイプの変更に失敗しました。画面を終了し、再び表示させてリソースのリストを最新表示します。論理区画が実際にバスを所有または使用しているかどうかを調べるために、再び要求を実行します。要求が再び失敗する場合は、サービス提供元に連絡してください。

操作環境の変更に失敗しました - 区画の電源をオフにしてください

論理区画のアクションには、区画の電源オンまたは電源オフを必要とするものがあります。

操作環境の変更が取り消されました

ユーザーは手動で、操作環境の変更を取り消しました。これは通知目的のメッセージです。

操作環境の変更に成功しました

これは通知目的のメッセージです。

変更は成功しましたが、SLIC のリリースが共用プロセッサをサポートしていません

この機能は次のいずれかの理由により、サポートされません。オペレーティング・システムのバージョンまたはリリースがこの機能をサポートしないか、またはインストールされているゲスト・オペレーティング・システムがこの機能をサポートしていないため。

構成データの消去に失敗しました

構成データの回復処置中に論理区画構成管理プログラムで内部エラーが発生しました。サービス提供元に連絡してください。

構成データの消去に失敗しました - データが見つかりません

論理区画の構成データが存在しません。1 次区画からリソースを除去し、新しい 2 次区画にリソースを割り当てるなどの、サーバーの変更処理が行われていません。サーバーは要求されたアクションを実行しませんでした。

非構成ディスク装置構成データの消去に失敗しました

構成データの回復処置中に論理区画構成管理プログラムで内部エラーが発生しました。サービス提供元に連絡してください。

非構成ディスク装置構成データの消去に失敗しました - データが見つかりません

論理区画の構成データが存在しません。1 次区画からリソースを除去し、新しい 2 次区画にリソースを追加するなどの、サーバーの変更処理が行われていないか、またはディスク装置に何も構成データが入っていません。サーバーは要求されたアクションを実行しませんでした。


非報告論理区画リソースの消去に失敗しました

構成データの回復処置中に論理区画構成管理プログラムで内部エラーが発生しました。サービス提供元に連絡してください。

非報告論理区画リソースの消去に失敗しました - データが見つかりません

論理区画の構成データが存在しません。1 次区画からリソースを除去し、新しい 2 次区画にリソースを割り当てるなどの、サーバーの変更処理が行われていません。サーバーは要求されたアクションを実行しませんでした。

非報告論理区画リソースの消去が実行されません - データが保護されています

サーバーが論理区画構成データの問題を検出したため、コピー操作を実行できません。先に別の回復処置を実行してください。「バックアップおよび回復の手引き」 を参照して、どの回復処置を実行するかを調べてください。

参照コード・履歴の消去に失敗しました

このタスクを再試行してください。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。

構成の変更は成功しましたが、区画が機能しません

サーバーが論理区画への変更を許可します。しかし、論理区画がプロセッサ、主記憶域、または対話式パフォーマンスの最低要件を満たしていないため、論理区画が正常に再始動できない可能性があります。区画を再始動する前に必要なリソースを追加してください。

要求時に構成データが変更されました。再試行してください

要求を実行している間に区画の構成が変更されました。5 分間待機してから、操作を再試行してください。区画の再始動が行われるか、または再始動のプロセスが終了します。

構成データのエラーが検出されました - プロダクト活動ログ (PAL) を参照してください

論理区画構成データは保護されており、適切なアクションをとるまで変更できません。詳細については、プロダクト活動ログ (PAL) を参照してください。一般に、問題を解決するには、「構成データの回復」画面にあるオプションを使用してください。

検出された構成データのほうが新しいデータです

サーバーが他のディスク装置にある論理区画構成データを検出しました。この構成データは、この区画の IPL ディスク装置のデータよりも新しいデータです。他にアクションは必要ありません。

検出された構成データのほうが古いデータです

サーバーが他のディスク装置にある論理区画構成データを検出しました。この構成データはこの区画の IPL ディスク装置のデータよりも古いデータです。他にアクションは必要ありません。

他の区画から発生した構成データを検出しました

サーバーが他のディスク装置にある論理区画構成データを検出しました。サーバーはこの構成データが他の区画で発生したと判断しました。構成データを使用する前に、構成済みでないディスク装置の構成データを消去してください。

元々他のシステムのものであった構成データを検出しました

サーバーが他のディスク装置にある論理区画構成データを検出しました。サーバーはこの構成データが他のサーバーのものであったと判断しました。構成データを使用する前に、非構成ディスク装置の構成データを消去してください。

コンソール IOP の選択に失敗しました

内部エラーが発生しました。サーバーは区画に割り当てられたリソースの一覧と入出力プロセッサ (IOP) を関連付けできませんでした。0C00 C9FF エントリーがないかどうか、ライセンス内部コードのログを検査してください。

コントロール・パネルの読み取りに失敗しました

このタスクを再試行してください。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。

コントロール・パネルのタスクが失敗しました

仮想サービス・プロセッサのタスクが失敗しました。2 次区画のコントロール・パネル機能の使用は、1 次区画からでは機能しない場合があります。サービス提供元に連絡してください。

コントロール・パネルの更新に失敗しました

内部エラーが発生し、パネルの要求が失敗しました。再試行してもこの状態が継続する場合は、サービス提供元に連絡してください。0C00 C9FF ライセンス内部コードのログがある可能性があります。

構成データの他のサイドへのコピーに失敗しました

構成データの回復処置中に論理区画構成管理プログラムで内部エラーが発生しました。サービス提供元に連絡してください。

構成データの他のサイドへのコピーに失敗しました - データが有効ではありません

論理区画構成データのこのコピーは壊れているか、または誤っています。他の IPL ソースを使用して区画を再始動してください。成功した場合は、この IPL ソースに構成データをコピーします。問題が解決しない場合は、サービス提供元に連絡してください。

構成データの他のサイドへのコピーに失敗しました - データが見つかりません

論理区画の構成データが存在しません。1 次区画からリソースを除去し、新しい 2 次区画にリソースを割り当てるなどの、サーバーの変更処理が行われていません。サーバーは要求されたアクションを実行しませんでした。

構成データの他のサイドへのコピーが実行されません - データが保護されています

サーバーが論理区画構成データの問題を検出したため、コピー操作は実行できません。先に他の回復処置を実行してください。

保守ツールを開始できませんでした

「専用保守ツールの使用」メニューから保守機能を開始できませんでした。サーバーの区画を操作しようとしている場合、このエラーは別のユーザーが同じ論理区画で SST を使用してサーバーの区画を操作していることを示しています。

CPM または MSD の IPL の再試行に失敗しました

パネル・タスクに障害が発生しました。要求を再試行してください。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。

すべての区画の IPL が実行されるまでは、データが完全でない場合があります

保守機能は、このメッセージが表示された画面上の 2 次区画がすべて電源オンかどうか、および入出力アダプターや装置などのリソースが報告できるかどうかを検査します。論理区画構成管理プログラムは、通常これらの種類のリソースをトラッキングしません。区画が起動するまではバスおよび入出力プロセッサしか参照できません。

区画の IPL が実行されるまでは、データが完全でない場合があります

論理区画は、論理区画構成管理プログラムが、その区画が所有または使用しているバスに接続されているリソースを把握できない状態 (たとえば電源オフの状態) にあります。前回に区画を正常に再始動してから、リソースを物理的に移動した可能性があります。このメッセージは通知用です。論理区画を再始動するまでは、サーバーには入出力アダプターや装置が表示されないことを示しています。前の再始動からバスのリソースを移動した可能性があります。

データの回復は許可されません。戻りコード : xxxxxxxx

このメッセージは、サーバーが構成データの回復処理中にエラーを検出したときに表示されます。サービス提供元に連絡してください。

リモート保守の非活動化に失敗しました

パネル・タスクに障害が発生しました。要求を再試行してください。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。

デフォルトのエレクトロニック支援 IOP の選択に失敗しました

内部エラーが発生しました。サーバーは区画に割り当てられたリソースの一覧と IOP を関連付けできませんでした。0C00 C9FF エントリーがないかどうか、ライセンス内部コードのログを検査してください。

削除に失敗しました - 1 つ以上の区画が現在、共用プールを使用しています

共用プロセッサ・プールを使用している活動中の 2 次区画があるために、このアクションは使用できません。

この問題の明細報告書が存在しません

この問題には詳細情報がありません。他のアクションは必要ありません。

ディスク装置 IOP リセット/再ロードに失敗しました

パネル・タスクに障害が発生しました。要求を再試行してください。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。

プロセッサ状況の表示に失敗しました。区画が所有するプロセッサがありません

選択した区画にはプロセッサがありません。要求したオプションは実行できません。

保護モードでは DST コンソール・セッションはパネル機能を使用する必要があります

このエラーは DST で実行する必要がある機能を SST で選択したときに発生します。DST 画面を使用して、この機能を実行してください。

MFIOIP のダンプが失敗しました

MFIOIP のダンプが要求されましたが失敗しました。プロダクト活動ログ (PAL) で、MFIOIP リソースに関連したエラーを調べて、エラーをサービス提供元に報告してください。

MFIOIP のダンプが成功しました

MFIOIP のダンプが正常に行われました。

エレクトロニック支援 IOP の選択に成功しましたが、非同期がサポートされていません

2 次区画に対するデフォルトのエレクトロニック支援 IOP を正常に選択しました。この種類のリソースでは、非同期通信プロトコルをサポートしていないことに注意してください。

エレクトロニック支援 IOP の選択に成功しましたが、SDLC がサポートされていません

2 次区画に対するデフォルトのエレクトロニック支援 IOP を正常に選択しました。この種類のリソースでは、SDLC 通信プロトコルをサポートしていないことに注意してください。

共用プロセッサ・プール装置の値を入力してください

共用プロセッサ・プール装置の値を入力してください。

DST の強制実行に失敗しました

パネル・タスクに障害が発生しました。要求を再試行してください。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。

システム MSD の IPL 中に機能の使用は許可されていません

この区画は現在、主記憶域のダンプを実行しています。この時点では、要求された機能を実行することはできません。

1 次区画のバージョン/リリース・レベルにより機能を利用できません

2 次区画で実行しようとした機能は、1 次区画に前のバージョンのオペレーティング・システムがあるため、使用できません。この機能を使用可能にするには、1 次区画を同じレベル以降にしてください。

SST では機能がサポートされていません。DST コンソールを使用してください

実行を試行した機能は、DST の方がセキュリティーが高いため DST からの使用のみ許可されています。DST を開始してこの機能を再試行してください。

区画 ID に許可された最大値: xx

このエラーは、サーバーで許可される数よりも大きい ID を区画に指定したときに発生します。許可された最大値と同じ、またはそれより少ない数を入力してください。

正しくないキーが押されました

無効なキーが押されました。この画面の有効なファンクション・キーを押してください。

正しくないリソースの種類が選択されました

選択した種類のリソースがサポートしていない要求を行いました。エラー・メッセージの表示される画面によって異なりますが、バスまたは IOP、あるいはその両方を選択する必要があります。

プロセッサの数に応じて、対話機能が xxx % に減少しました

このメッセージは通知用であり、システムが値を調整したことを示します。値を確認したら、実行キーを押して承諾します。他のアクションは必要ありません。

プロセッサの数に応じて、対話機能が xxx % に増加しました

このメッセージは通知用であり、システムが値を調整したことを示します。値を確認したら、実行キーを押して承諾します。他のアクションは必要ありません。

入力した対話機能のパーセンテージは無効です

100 % を超えた値か、または整数以外の値を入力しました。区画に対して 1 % から 100 % までの値を入力してください。

対話機能のパーセンテージが最大値と最小値の範囲内ではありません

この区画の対話式パフォーマンスの値を変更しようとしてしました。しかし、入力した値は最大値と最小値の範囲内ではありません。最大値と最小値の間の数値を入力するか、または最大値と最小値を変更してください。

IOP の種類により IOP を追加または除去できません

サーバーは次の理由により、入出力プロセッサを追加または除去できません。

- OptiConnect に使用する仮想バスが付加されているため
- クラスタ化された環境で使用するバスが付加されているため
- IOP が 1 次区画の IPL 装置またはコンソールに使用されているため

IOP オプションは指定されたバス・オプションと一致している必要があります

要求の性質上、バスと付加された IOP のオプションが互いに矛盾してはなりません。

選択した IOP は、要求した機能をサポートする機能がありません

タグ付きのリソース選択画面でリソース機能をフィルターに掛けるときに、サーバーがこのリソースが要求された機能選択をサポートできないと判断した場合、このメッセージが表示されます。タグ付きのリソースは、IPL 装置 IOP またはコンソール IOP など、2 次区画にとって特別な意味を持つリソースです。選択画面で F9 を押して、フィルター機能をオフにしてください。使用したいリソースを選択できるようになります。

入出力リソースがシステムと異なります。回復後に構成を調整してください

これは警告メッセージです。本来構成の一部でなかったリソースがサーバーにあります。この区画の構成データに対して回復処置を実行してください。

使用可能な共用プロセッサ装置が十分にありません

共用プロセッサ装置の数を、共用プロセッサ・プールで使用可能な数よりも大きく設定しよう

としました。考えられる解決策は、共用プロセッサ・プールにさらにプロセッサを追加するか、共用プロセッサ装置の数を、使用可能な共用プロセッサ装置の数より小さいか等しい数に削減することです。

IPL の再始動に失敗しました

パネル・タスクに障害が発生しました。要求を再試行してください。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。

作成を続行するには IPL 装置とコンソール IOP が必要です

この区画に追加できる IOP がありません。前に戻って必要な IOP を他の区画から除去し、この区画の作成を続行してください。

IPL 装置 IOP の選択に失敗しました

内部エラーが発生しました。サーバーは区画に割り当てられたリソースの一覧と IOP を関連付けできませんでした。0C00 C9FF エントリーがないかどうか、ライセンス内部コードのログを検査してください。

論理区画の構成データでエラーを検出しました

論理区画の構成管理プログラム・チェックサムが失敗しました。この構成データの有効性は信頼できません。サービス提供元に連絡してください。

論理区画の構成データが有効ではありません

論理区画の構成管理プログラムが、IPL ディスク装置の現在の IPL ソース (ソース A またはソース B) で、論理区画データを検出できませんでした。サービス提供元に連絡してください。

論理区画の構成データが見つかりません

論理区画の構成データが存在しません。1 次区画からリソースを除去し、新しい 2 次区画にリソースを割り当てるなどの、サーバーの変更処理が行われていません。サーバーは要求されたアクションを実行しませんでした。

有効な選択をしてください

この選択に対して有効でない入力を行いました。この選択に対して有効な入力をしてください。

最大プロセッサ数に応じて最大対話式パフォーマンスが xxx % に設定されました

サーバーには区画間で分割可能な 100 % の対話式パフォーマンスがあります。しかし、各区画の許可範囲は、サーバーのプロセッサを分割する方法によって異なります。たとえば、1 つの区画にサーバーの 10 % のプロセッサしかない場合、その区画がサーバーの対話式パフォーマンスの 99 % を利用することはできません。これらのエラー・メッセージは、対話式パフォーマンスの設定が実際の範囲を超えたため、サーバーが調整を行ったときに表示されます。

最大プロセッサ・プール装置が、最大プロセッサがサポートできる数を超過して指定されました

処理装置の数を、最大プロセッサでサポートできるよりも大きい数に設定しようとしてしました。考えられる解決策は、要求される処理装置の最大数を削減することです。

最大プロセッサ数に応じて、最大プロセッサ装置数が xxx に設定されました

最大プロセッサ装置数が、指定された最大プロセッサ数を基にして調整されました。調整値は、プロセッサにつきサポートされる最大プロセッサ装置数を満たすために指定された値と異なっています。

入力した最大値が有効ではありません

入力した値は正しくありません。このサーバーが許可する値を超えているか、または整数ではありません。他の値を入力してください。

最小プロセッサ数に応じて、最小対話機能が xxx % に設定されました

サーバーには区画間で分割可能な 100 % の対話式パフォーマンスがあります。しかし、各区画の許可範囲は、サーバーのプロセッサを分割する方法によって異なります。たとえば、1 つの区画

にサーバーの 90% のプロセッサがある場合、その区画がサーバーの 1% の対話式パフォーマンスを利用することはできません。これらのエラー・メッセージは、対話式パフォーマンスの設定が実際の範囲を超えたため、サーバーが調整を行ったときに表示されます。

最小プロセッサ・プール装置が、最小プロセッサがサポートできるよりも小さい数に指定されました
処理装置の数を、最小プロセッサでサポートできるよりも小さい数に設定しようとした。考えられる解決策は、要求する処理装置の数を増やすことです。

最小プロセッサ数に応じて、最小プロセッサ装置数が xxx に設定されました
最小プロセッサ装置数が、指定された最小プロセッサ数を基にして調整されました。調整値は、プロセッサにつきサポートされる最小プロセッサ装置数を満たすために指定された値と異なっています。

最小値が最大値を超えることはできません
最小値に指定した値が最大値を超えています。最大値を増やすか、または現在の最大値よりも少ない最小値を入力してください。

入力した最小値が有効ではありません
入力した値は正しくありません。このサーバーが許可する値より少ないか、または整数ではありません。他の値を入力してください。

プロセッサの値に応じて、複数の対話機能の値が調整されました
このメッセージは通知目的であり、システムが値を調整したことを示します。値を確認したら、実行キーを押して承諾します。他のアクションは必要ありません。

新たに入力した対話式パフォーマンスのパーセンテージが利用可能な値を超えています
要求された量を追加できる十分な対話式パフォーマンスがありません。対話式パフォーマンスに小さい値を追加するか、または別の区画から対話式パフォーマンスを解放してください。

新たに入力したプロセッサ数が利用可能な値を超えています
要求された量を追加できる十分なプロセッサがありません。プロセッサに小さい値を追加するか、または別の区画からプロセッサを解放してください。

新たに入力した区画名が有効ではありません
区画名の文字は、任意の文字 (A ~ Z) と任意の数字 (0 ~ 9) にするという規則に従ってください。名前はすべての桁を空白にすることはできません。また名前を PRIMARY にすることはできません。既存の 2 次区画と同じ名前にすることはできません。

新たに入力した区画名が有効ではありません - 名前がすでに存在します
この区画用に入力した名前はすでにサーバーの他の区画によって使用されています。この区画に別の名前を入力してください。

新たに入力した主記憶域のサイズが利用できる値を超えています
要求した容量を追加するのに利用できる主記憶域が十分にありません。主記憶域に小さい値を追加するか、または主記憶域に必要な量を別の区画から解放します。

現在、選択した IOP に代替 IPL 装置が接続されていません
これは警告メッセージです。サーバーはこの IOP に接続されている代替 IPL を識別できません。装置が接続されていない場合は、必ず区画で IOP を使用する前に、装置を付加してください。

変更されていません。新規名は既存の名前と同じです
これは通知目的のメッセージです。区画の名前を変更するよう選択しました。しかし、選択した名前が前に選択したものと同じです。他のアクションは必要ありません。

現在、選択した IOP にコンソール装置が接続されていません

これは警告メッセージです。サーバーはこの IOP に接続されているコンソール装置を識別できません。装置が接続されていない場合は、必ず区画の IOP を再試行する前に装置を接続してください。

選択した IOP にエレクトロニック支援リソースが接続されてません

これは警告メッセージです。サーバーはこの IOP に接続されているエレクトロニック支援を識別できません。装置が接続されていない場合は、必ず区画の IOP を再試行する前に装置を接続してください。

ゲスト区画が定義されていません

これは通知目的のメッセージです。

選択した IOP に IPL 装置機能のあるディスク装置が接続されていません

これは警告メッセージです。サーバーはこの IOP に接続されている IPL ディスク装置を識別できません。装置が接続されていない場合は、必ず区画の IOP を再試行する前に装置を接続してください。

構成データを持った非構成ディスク装置が見つかりません

このメッセージは、「構成データの消去 (Configuration Data Clear)」画面の「非構成ディスク装置の選択 (Select Non-Configured Disk Unit)」で表示されます。選択したディスク装置には区画構成データが含まれていません。

保守プリンターが指定されていません。印刷要求が失敗しました

このメッセージは、DST または SST でプリンターを選択せずにプロンプトを終了したときに表示されます。プリンターを選択する場合は、要求を再び試行します。

システムの区画操作を開始できません

このメッセージは、SST で表示され、サーバー上の他のユーザーが DST または SST のいずれかで、現在論理区画の操作をしていることを示します。

利用可能な対話式パフォーマンスのパーセンテージが十分にありません

要求した値は利用できる対話式パフォーマンスを超えています。対話式パフォーマンスに小さい値を追加するか、または必要な量を他の区画から除去します。

利用可能な主記憶域が十分にありません

要求した値は利用できる主記憶域の容量を超えています。主記憶域に小さい値を追加するか、または必要な量を別の区画から除去します。

利用可能なプロセッサが十分にありません

追加要求したプロセッサ数は、利用できるプロセッサ数を超えています。プロセッサに小さい値を追加するか、または必要な容量を別の区画から除去します。

利用可能なプロセッサが十分にありません

ユーザーの要求を完了するためには、使用可能なプロセッサが十分にありません。要求するプロセッサの数を削減してください。

利用可能な共用プール・プロセッサ装置が十分にありません

共用プロセッサ装置の数を、使用可能な数よりも大きく設定しようとしてしました。可能な解決策は、共用プールにさらにプロセッサを追加するか、要求するプロセッサ装置の数を、使用可能なプロセッサ装置の数より小さいか等しい数に削減することです。

入力された数値が小さすぎます - 使用している区画で必要な数より小さい値です

共用プロセッサ・プールには、入力された数よりも多くのプロセッサが必要です。要求を満た

すために、より大きなプロセッサ数を入力してください。共用プロセッサ・プールを使用するすべての区画のプロセッサの最大数をサポートするため、共用プロセッサは十分なプロセッサをもたなければなりません。

プールに割り振られたプロセッサの数が正常に変更されました

これは通知目的のメッセージです。

入力されたプロセッサの数が、使用可能な数より大きい数です

使用可能な数よりも多くのプロセッサを移動しようとしてしました。移動するプロセッサの数を削減してください。

プロセッサの数値が最大値と最小値の範囲内ではありません

この区画のプロセッサの値を変更しようとしてしました。しかし、入力した値は最大値と最小値の範囲内ではありません。最大値と最小値の間の数値を入力するか、または最大値と最小値を変更してください。

入力したプロセッサの数値が有効ではありません

入力した値は正しくありません。このサーバーが許可する値より多いか少ない、あるいは整数ではありません。他の値を入力してください。

共用プロセッサ装置の数値が最大値と最小値の範囲内ではありません

プロセッサ装置の数は、最小共用プロセッサ装置の数より大きいか等しく、かつ最大共用プロセッサ装置の数より小さいか等しくなければなりません。

1 つの区画しか選択できません

複数の区画で 1 つのアクションを実行しようとしてしました。この画面では一度に 1 つの要求しか処理できません。各区画に対して別々にアクションを繰り返してください。

1 つのリソースしか選択できません

複数のリソースで 1 つのアクションを実行しようとしてしました。この画面では一度に 1 つの要求しか処理できません。各リソースに対して別々にアクションを繰り返してください。

特定の種類の 1 つのリソースしか選択できません

複数種類のリソースで 1 つのアクションを実行しようとしてしました。この画面では、各種類のリソースに対して一度に 1 つの要求しか処理できません。各種類のリソースに対して別々にアクションを繰り返してください。

オプションは 1 次区画からしか許可されません

システム IPL アクションを変更するオプション 13 と 14 は 1 次区画から実行できます。2 次区画でその値を表示したり変更することは、サーバーでは許可されません。または、2 次区画は保護モードに設定されています。したがって、1 次 DST コンソールに移動して、保護モード以外のモードに値を変更する必要があります。

システム MSD の IPL 中にオプションは許可されていません

サーバーが主記憶域ダンプ (MSD) の実行中に、論理区画構成データを変更するための複数の構成オプションを実行することはできません。たとえば、回復処置を実行したり、新規 2 次区画を作成することはできません。

次の IPL までは新規区画に対するオプションは許可されません。

この区画は最近作成されました。サーバーを再始動するまでは、この区画からいずれのアクションも実行することはできません。サーバーをいったん再始動すれば、このオプションを試行できます。

1 次区画に対するオプションは許可されません

1 次区画に対してオプションを発行しても、意味をなさないものがあります。たとえば、1 次区画名の変更や 1 次区画の削除、または IPL 装置 IOP やコンソール IOP などのタグ付き 2 次リソースの選択はできません。

選択したリソースに対するオプションは許可されません

入力したオプションは、この画面では有効ではありません。許可されたオプションのリストについては、画面を参照してください。

区画が保護モードのときはオプションの使用は許可されません。 1 次 DST を使用してください

このエラーは、保護モードに設定されている区画の「区画状況の処理」画面で、パネル機能を使用しようとしたときに発生します。区画が保護モードに設定されている場合、DST コンソールの 1 次区画の「区画状況の処理」画面からのみ、そのパネル機能を実行できます。区画モードを保護モードから他のモードに変更すると、その 2 次区画でパネル機能を使用できます。

オプションは 1 次区画についてのみ許可されます

いくつかのアクションは、2 次区画については許可されていません。たとえば、2 次区画から構成変更を行うことはできません。

パネル機能に失敗しました - キーロックがコントロール・パネルにありません

サーバー・キーがコントロール・パネルにありません。キーを挿入して再び要求を試行します。

区画の電源がすでにオフになっています

この区画の電源をオフにするよう選択しました。しかし、この区画はすでにオフになっています。

区画の電源がすでにオンになっています

この区画の電源をオンにするよう選択しました。しかし、この区画はすでにオンになっています。

区画の作成に失敗しました - 区画の最大数がすでに存在します

サーバーにはすでにこのリリースで許可された最大数の論理区画があります。他の論理区画を作成することはできません。

区画の作成に失敗しました - 利用可能なシステム・リソースが十分にありません

他の論理区画を作成することはできません。このサーバーがサポートする最大数の区画がすでに作成されています。

区画の削除に失敗しました - 区画の電源をオフにしてください

区画の電源がオンのときに区画を削除することはできません。区画の電源をオフにしてから、その区画を削除する操作を実行してください。

入力した区画 ID はすでに他の区画によって使用されています

このエラーは、サーバー上の他の区画によってすでに使用されている ID を区画に指定したときに発生します。他の ID を入力してください。

入力した区画 ID が有効ではありません

1 から 24 までの値以外の ID、または整数以外を入力しました。1 から 24 までの値を入力してください。

バージョン/リリース・レベルにより、回復後に区画のインストールが必要になる場合があります

これは警告メッセージです。システムが 2 次区画のうちの 1 つで、サポートされていないソフトウェアのバージョンと思われるものを検出しました。識別されたリリースは現在のサーバー・ハードウェアをサポートできません。2 次区画にサポートされていないリリースがある場合は、1 次区画の回復を終了した後で、サポートされた OS/400 バージョンをインストールします。

区画 xxx の作成は成功しましたが、区画が機能しません

サーバーは、論理区画への変更を許可しましたが、論理区画がプロセッサ、メモリー、または対

話式パフォーマンスの最低要件の 1 つ以上を満たしていないため、論理区画が正常に再始動できない可能性があります。区画を再始動する前に必要なリソースを追加してください。

ドメインの電源オフに失敗しました

パネル・タスクに障害が発生しました。要求を再試行してください。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。

ドメインの電源オンに失敗しました

パネル・タスクに障害が発生しました。要求を再試行してください。障害が続く場合は、サービス提供元に連絡してください。

1 次区画の構成データの回復に失敗しました

構成データの回復処置中に論理区画構成管理プログラムで内部エラーが発生しました。サービス提供元に連絡してください。

1 次区画の構成データの回復に失敗しました - データが見つかりません

論理区画の構成データが存在しません。1 次区画からリソースを除去して新しい 2 次区画にリソースを割り当てるなどの、サーバーの変更を行っていません。サーバーは要求されたアクションを実行しませんでした。

1 次区画の構成データの回復に失敗しました - 新しいデータが見つかりません

それ以上のアクションは必要ありません。サーバーは、現在この論理区画の IPL ディスク装置で保存されているものと異なる論理区画構成データを、別のディスク装置で検出しませんでした。

印刷要求が不明なエラーにより失敗しました

不明なエラーが発生しました。サービス提供元に連絡してください。

印刷要求は送信されません。印刷するエントリーはありません

印刷する内容を選択せずに印刷要求を送信しようとしたか、またはこの画面からは印刷が許可されません。エントリーを選択できる画面から印刷を試行してください。

印刷要求は 1 つ以上のエラーと共に保守プリンターに送信されました

これは通知目的のエラーです。印刷要求にはエラーがありますが、印刷要求は成功しました。問題の性質を判断するために、サービス提供元に連絡をとることができます。

問題の解決に失敗しました

受諾するものとして選択した問題が現在の既知の論理区画問題リストにないか、または他の内部エラーが発生しました。サービス技術員に連絡してください。

問題の解決に失敗しました。アテンション・エラーを消去できません

受諾するものとして選択した問題が現在の既知の論理区画問題リストにないか、または他の内部エラーが発生しました。サービス技術員に連絡してください。

問題の解決に失敗しました。通知目的のエラーを消去できません

受諾するものとして選択した問題が現在の既知の論理区画問題リストにないか、または他の内部エラーが発生しました。サービス技術員に連絡してください。

問題の解決に失敗しました。重大エラーを消去できません

受諾するものとして選択した問題が現在の既知の論理区画問題リストにないか、または他の内部エラーが発生しました。サービス技術員に連絡してください。

I/O リソースの除去に失敗しました

内部エラーが発生しました。サーバーは、IOP が現在該当する区画によって所有されていることを検出しなかったため、まだ利用可能なリソースではありません。サービス提供元に連絡してください。

SPCN アドレッシングのリオーダーが成功しました

これは通知目的のメッセージです。

要求したパネル機能は現在使用可能ではありません

サーバーはこの時点ではパネル機能を使用可能にしていません。しばらく待機してから、再び要求を試行します。たとえば区画が再始動され、専用保守ツール (DST) にまで達していないときにある区画に対してパネル機能 21 が試行された場合、21 は DST が始動を完了するまでは使用可能になりません。

要求が失敗しました。バス xxx は使用していません

区画は現在バスを使用していません。したがって区画はバスを所有できません。

要求が失敗しました。バス xxx は共用されていません

バスは (クラスターで使用されるなど) 共用に変更できない特別な状況です。または、除去中の IOP が共用モードのバスに属していません。

要求に失敗しました。構成データが保護されています - プロダクト活動ログを参照してください

論理区画の構成データがなんらかの理由で保護されており、訂正アクションを取るまで変更できません。アクションの詳細については、プロダクト活動ログ (PAL) を参照してください。一般に、問題を解決するには、「構成データの回復」画面にあるオプションを使用してください。

1 つ以上の区画の状況により、要求に失敗しました

要求した機能によって異なりますが、2 次区画のすべての電源をオフにするか、またはオンにして続行します。

要求に失敗しました。報告されたエラーが処理されませんでした

エラー報告画面が以前に表示されましたが、サーバーがリストの問題から回復していない状態で、またはサーバーが回復処置の実行に失敗した状態で、ユーザーによって取り消されました。

要求に失敗しました。戻りコード: xxxxxxxx

このメッセージは、メッセージに関連するメッセージ記述がないエラーに対して表示されます。16 進戻りコードによって発生した内容が示されます。

0xFFFFF98

I/O 構成が現在のアクションの実行中に変更されました。画面によって異なりますが、リソースは自動的に最新表示される場合があります。その場合は要求を再試行します。要求を再試行するには、画面を終了し、再び画面に入る必要がある場合があります。

要求はこの区画に許可されていません

この区画に許可されていない要求が行なわれました。1 次区画では、許可されていないアクションがいくつかあります。たとえば、1 次区画を削除したり、1 次区画の IPL 装置入出力プロセッサを除去したりすることはできません。

要求が失敗しました。共用プールにあるよりも多くのプロセッサが指定されました

共用プロセッサの数を、共用プロセッサ・プールで使用可能な数よりも大きく設定しようとしました。可能な解決策は、共用プールにさらにプロセッサを追加するか、要求されるプロセッサの数を、使用可能なプロセッサの数より小さいか等しい数に削減することです。

要求に失敗しました - プロダクト活動ログを参照してください

構成の変更要求中に論理区画構成管理プログラムで、内部エラーが発生しました。詳細については、プロダクト活動ログ (PAL) を参照してください。サービス提供元に連絡してください。

要求より少ないリソースが区画に割り当てられました

区画は、要求よりも少ないプロセッサ、主記憶域、または対話式パフォーマンスで再始動した可能性があります (しかし最小許可制限内)。これらのリソースを除去しようとする、現在区画が使用しているリソースを超えてしまいます。

入力した主記憶域のサイズは有効ではありません

主記憶域に対する入力値は有効な整数ではありません。整数を入力してください。

主記憶域サイズが最大値と最小値の範囲内ではありません

この区画の主記憶域の値を変更しようとした。しかし、入力した値は最大値と最小値の範囲内ではありません。最大値と最小値の間の数値を入力するか、または最大値と最小値を変更してください。

共用プロセッサ・プールが正常に作成されました

これは通知目的のメッセージです。

共用プロセッサ・プールが正常に削除されました

これは通知目的のメッセージです。

共用プロセッサ・プール装置が最大プロセッサ数を超えています

処理装置の数を、最大プロセッサ数よりも大きく設定しました。可能な解決策は、要求する処理装置の量を、現行プロセッサでサポートできる量より小さいか等しい量に削減することです。各プロセッサは、最大 1.00 の処理装置をサポートできます。

入力された共用プロセッサ・プール装置の割り当てが無効です

入力した値は正しくありません。共用プールで許可されるより大きい値か、より小さい値です。他の値を入力してください。

共用プロセッサ・プール装置が最小プロセッサ数を下回っています

処理装置の数を、最小プロセッサ数よりも小さく設定しました。可能な解決策は、要求する処理装置の量を増やすことです。

共用プロセッサ・プール装置が、プロセッサでサポートできるより大きくなっています

プロセッサがサポートできるより大きな処理装置数を指定しました。可能な解決策は、より多くのプロセッサを使用するか、処理装置の数を削減することです。

入力した主記憶域の最大値に対し、最小値は xxxxxxxx です

サーバーでは、主記憶域の最小値と最大値が相対的に合理的な範囲となる必要があります。これは、指定した最大サイズに応じて、サーバーが使用する固定記憶域の一定のサイズが割り振られるためです。サーバーによって要求された固定記憶域は、指定した最小値よりも少なくすることはできません。最小値は最低でもメッセージと同じ値になるように調整してください。または、最大値のサイズより少なくなるように調整してください。

変更を有効にするにはシステムの IPL が必要です

論理区画構成の変更が行なわれました。サーバーを再始動して変更を有効にすることが必要です。再始動が必要な変更のタイプには、区画の作成、変更、回復、バス所有権の変更、または 1 次区画のプロセッサ、主記憶域、対話式パフォーマンスの値の変更があります。

装置の論理区画の構成に誤りがあります

論理区画の構成データがなんらかの理由で保護されており、訂正アクションを取るまで変更できません。アクションの詳細については、プロダクト活動ログ (PAL) を参照してください。一般に、問題を解決するには、「構成データの回復」画面にあるオプションを使用してください。

保守機能の不明なエラーです

論理区画の構成データまたは論理区画の保守機能のいずれかを管理するライセンス・コードに予期

しない状況が発生しました。0C00 C9FF エントリーがないかどうか、ライセンス内部コードのログを検査してください。サービス提供元に連絡してください。

構成データの更新に失敗しました

構成データの回復処置中に論理区画構成管理プログラムで内部エラーが発生しました。サービス提供元に連絡してください。

構成データの更新に失敗しました - データが見つかりません

論理区画の構成データが存在しません。1 次区画からリソースを除去し、新しい 2 次区画にリソースを割り当てるなどの、サーバーの変更処理が行われていません。サーバーは要求されたアクションを実行しませんでした。

詳細のレベルに入力した値は有効ではありません

このフィールドに入力した値は正しくありません。詳細のレベルに有効な値を入力してください。

参照コード番号に入力した値は有効ではありません

このフィールドに入力した値は正しくありません。参照コード番号に有効な値を入力してください。

2 次区画に対して入力した値は有効ではありません

このフィールドに入力した値は正しくありません。2 次区画に対して有効な値を入力してください。

システムの区画に対して入力した値は有効ではありません

このフィールドに入力した値は正しくありません。システムの区画に対して有効な値を入力してください。

エラー報告書内の論理区画エラー・メッセージ

論理区画の構成管理プログラムが複数のエラーを報告する必要がある場合、「論理区画エラー報告書 (Logical Partitioning Error Report)」画面が表示されます。この画面には、エラーの詳細付き要約が含まれており、詳細は特定のエラーのオプション 5 を使用して参照します。

この画面から F3 (終了) または F12 (取り消し) を選択して、現在の要求を取り消して前の画面に戻ることができます。また、オプション 1 (問題を受諾する (Accept Problem))、または F10 (すべての問題を受諾して続行する (Accept all problems and continue)) を選択して、エラーを受諾して続行することもできます。ただし、アクションを取る前に、これらのエラーを完全に理解する必要があります。

報告書グループのエラー・メッセージは、以下のカテゴリーに分かれています。

- **通知目的** - 回復可能エラーが発生しましたが、要求した操作は妨げられていません。
- **重要** - 要求した操作が妨げられるエラーが発生しました。詳細には障害の原因が説明されていますが、どの操作が失敗したのかは示されません。失敗した操作を判別するには、**重大エラー**を参照してください。
- **重大** - 操作が正常に完了できませんでした。失敗した操作の原因については前の**重要**メッセージを参照してください。

次のリストには、重要メッセージと重大メッセージの要約、エラーの発生した原因、および推奨処置が示してあります。

バスが除去されていません


バスを除去する操作に失敗したことを示す重大メッセージです。エラー報告書にリストされている前の重要エラーを訂正し、再び操作を試行してください。

バスの所有権タイプの変更に失敗しました

バスの所有権タイプの操作に失敗したことを示す重大メッセージです。エラー報告書にリストされている前の重要エラーを訂正し、再び操作を試行してください。

装置は使用されています

区画からリソースを除去しようとしたときに、その特定のリソースがサーバー、サーバーの IOP、またはバスによって使用中であることを示す重要メッセージです。このリソースがディスク装置の場合は、IOP またはバスからディスク装置を除去する前に、現在の補助記憶域プール (ASP) からディスク装置を除去する必要があります。

- ディスク装置を ASP から除去する方法の詳細については、「バックアップおよび回復の手引き」  の『ユーザー補助記憶域プールの情報の回復』の章を参照してください。
- その他のリソースについては、次のステップを実行してください。
 1. オフに構成変更する必要があるリソースの論理アドレスを書き込んでください。区画に割り振られたリソースを表示するときに、この情報を検索することができます。
 2. OS/400 からは「構成状況処理」(WRKCFGSTS) コマンドを使用して、論理アドレスに応じたリソース名を検索します。DST からは、ハードウェア保守管理機能に入ります。
 3. リソースで活動中の装置または制御装置があればすべてオフに構成変更します。

ジョブ終了の詳細については、「システム操作の基本」を参照してください。

IOP が除去されていません

IOP の除去操作に失敗したことを示す重大メッセージです。エラー報告書にリストされている前の重要エラーを訂正し、再び操作を試行してください。

IOP の再割り当てが必要です

バスの所有権を共用から専用に変更しようとしたことを示すメッセージです。しかし、バスには現在どの論理区画にも割り当てられていない IOP が含まれています。I/O リソースを追加して、使用可能な IOP をバス所有者と同じ区画に割り当てます。それから、バス所有権タイプの変更に繰り返します。

I/O リソースが更新されていません

I/O リソースが構成データ内で更新されなかったことを示す重大メッセージです。エラー報告書にリストされている前の重要エラーを訂正し、再び操作を試行してください。

IOP の状況が不明です

IOP を除去する区画で特定の IOP を見つけることができないことを示す重要メッセージです。

所有する区画の電源が現在オフになっていて、IOP とそのリソースが利用可能であることが分かっている場合は、このエラーを無視することができます。所有している区画の電源がオンの場合、このエラーは、この所有する IOP が最近区画に追加されたものの、まだ活動中でないことを示しています。

5 分間待機してから、操作を再試行してください。障害が解消しない場合、または所有する区画に IOP が追加されたのが最近でない場合は、サービス技術員に連絡してください。


論理区画の構成データの処理

論理区画の構成データの処理が必要な場合があります。たとえば、ハードウェアの障害から回復する場合、エラーを訂正する場合、ハードウェアの交換後に保守作業を行う場合などに、このような処理が必要になります。

サーバーは各論理区画の IPL 装置上ですべての論理区画の構成データを保守しています。このなかで、1 次区画の構成データがマスター・コピーになります。1 次区画と 2 次区画の構成情報が矛盾したり、またはインストール中にディスク装置を初期化すると、問題が発生することがあります。以下に、エラーの回復方法や構成データの処理方法の情報が示されています。


- 論理区画の構成データの回復
- すべての構成データの保管
- すべての構成データの復元
- 論理区画の区画構成データの消去
- すべての論理区画の区画構成データの更新
- 非構成ディスク装置からの区画構成データの消去
- 論理区画の非報告リソースの消去
- 論理区画の IPL 装置としてのディスク装置の受け入れ
- IPL ソース間での区画構成データのコピー
- すべての論理区画の削除

重要: 論理区画の構成データを処理するには、iSeries ナビゲーターおよび専用保守ツール (DST) を使用してください。

データを移行する予定のある場合、または論理区画のあるサーバーを回復する場合は、「バックアップおよび回復の手引き」  の追加情報を参照してください。


論理区画の構成データの回復

以下の情報は、**1 次区画**にのみ適用されます。2 次区画の 1 つが OS/400 オペレーティング・システムを実行している場合、このオプションを使用して論理区画の構成データを回復することができます。この手順

はサーバー全体を回復する手順の一部です。詳細については、「バックアップおよび回復の手引き」  に説明されています。

1 次区画にライセンス内部コードを再インストールした後、DST を使用して論理区画の構成データを回復する必要がある場合があります。論理区画の構成データを回復するには、以下のステップを実行します。

1. ディスク構成を変更する前、または ユーザー ASP を回復する前に、オプション 11 (システム区画の処理) を選択します。
2. オプション 4 (構成データの回復) を選択します。
3. オプション 1 (1 次区画構成データの回復) を選択します。サーバーの最新の構成データがある非構成のディスク装置がサーバーによって検索されます。リソース・リストではなく、「最新の構成データのある装置が見つかりません (No units found with more current configuration data)」というメッセージが表示されたら、該当する構成情報をもつ未割り当てのディスク装置はありません。サービス技術員に連絡して、指示を受けてください。
4. 回復を行うための適切な構成を選択します。
5. 選択を確認して、実行キーを押してください。
6. サーバーは、新しい構成データを 1 次区画の IPL 装置にコピーし、1 次区画を自動的に再始動します。
7. 2 次区画の初期プログラム・ロード (IPL) を次回に実行したときに、サーバーが論理区画の構成データを更新します。

8. 1 次区画の IPL が完了したら、「バックアップおよび回復の手引き」  の、『回復』セクションに概説されている回復ステップを続行してください。

すべての構成データの保管

V5R2 より、iSeries ナビゲーターを使用して、論理区画の構成データを、iSeries ナビゲーターを実行しているコンピューターのファイルに保管することが可能になりました。この機能は、iSeries のすべての 2 次区画がゲスト・オペレーティング・システムを稼働している場合に使用されます。

この機能では、ゲスト区画 IPL パラメーターを保管しません。ゲスト区画 IPL パラメーターを保管する場合は、1 次区画で、システム全体の保管を実行する必要があります。

マネージメント・セントラルを使用してすべての構成データを保管するには、次のステップを実行します。

1. iSeries ナビゲーターで、「マネージメント・セントラル」を展開します。
2. 「区画があるシステム」を展開します。
3. 処理する論理区画がある物理システムを選択します。
4. 物理システムを右マウス・ボタンでクリックし、「区画の構成」を選択します。「論理区画の構成」ウィンドウでの作業になります。
5. 「物理システム」を右マウス・ボタンでクリックし、「回復」および「構成データのすべての保管」を選択します。保管されたすべての情報は、iSeries ナビゲーターを実行しているコンピューターのファイルに格納されます。

「ユーザー接続」を使用してすべての構成データを保管するには、次のステップを実行します。


1. iSeries ナビゲーターで、「ユーザー接続」またはアクティブな環境を展開します。
2. このシステムの 1 次区画を選択します。
3. 「構成およびサービス」を展開し、「論理区画」を選択します。
4. 「論理区画」を右マウス・ボタンでクリックし、「区画の構成」を選択します。「論理区画の構成」ウィンドウでの作業になります。
5. 「物理システム」を右マウス・ボタンでクリックし、「回復」および「構成データのすべての保管」を選択します。保管されたすべての情報は、iSeries ナビゲーターを実行しているコンピューターのファイルに格納されます。

保守ツール・ウィンドウを使用してすべての構成データを保管するには、次のステップを実行します。

1. iSeries ナビゲーターで、「ユーザー接続」またはアクティブな環境を選択します。
2. 「タスクパッド」ウィンドウで「**iSeries ナビゲーター保守ツール**」ウィンドウをオープンします。」を選択します。「タスクパッド」ウィンドウが表示されない場合は、「表示」を選択し、「タスクパッド」を選択します。
3. 接続する保守ツール・ネットワーク・インターフェースの **IP アドレス**を入力します。「OK」をクリックします。
4. **保守ツール・ユーザー ID** および**ユーザー・パスワード**の入力を求めるプロンプトが出されます。
5. システム名を展開し、「論理区画」を選択します。
6. 論理区画を右マウス・ボタンでクリックし、「区画の構成」を選択します。「論理区画の構成」ウィンドウでの作業になります。

7. 「物理システム」を右マウス・ボタンでクリックし、「回復」および「構成データのすべての保管」を選択します。保管されたすべての情報は、iSeries ナビゲーターを実行しているコンピューターのファイルに格納されます。


すべての構成データの復元

V5R2 より、iSeries ナビゲーターを使用して、すべての構成データを復元することが可能になりました。この機能は、iSeries のすべての 2 次区画がゲスト・オペレーティング・システムを稼働しており、iSeries ナビゲーターを実行しているコンピューターのファイルに構成データを保管している場合に使用されます。この手順はサーバー全体を回復する手順の一部です。詳細については、「バックアップおよび回復の手引き」 に説明されています。

サーバーの構成データが消去されている場合は、この機能を使用して、すべての構成データの保管のタスクを完了した際に作成された保管済み構成データへのアクセスを回復する必要があります。


マネージメント・セントラルを使用してすべての構成データを復元するには、次のステップを実行します。

1. iSeries ナビゲーターで、「マネージメント・セントラル」を展開します。
2. 「区画があるシステム」を展開します。
3. 処理する論理区画がある物理システムを選択します。
4. 物理システムを右マウス・ボタンでクリックし、「区画の構成」を選択します。「論理区画の構成」ウィンドウでの作業になります。
5. 「物理システム」を右マウス・ボタンでクリックし、「回復」および「構成データのすべての復元」を選択します。

1 次区画の再始動が完了した後、「バックアップおよび回復の手引き」 の回復に関するセクションに概説されている回復ステップを続行します。

「ユーザー接続」を使用してすべての構成データを復元するには、次のステップを実行します。


1. iSeries ナビゲーターで、「ユーザー接続」またはアクティブな環境を展開します。
2. このシステムの 1 次区画を選択します。
3. 「構成およびサービス」を展開し、「論理区画」を選択します。
4. 「論理区画」を右マウス・ボタンでクリックし、「区画の構成」を選択します。「論理区画の構成」ウィンドウでの作業になります。
5. 「物理システム」を右マウス・ボタンでクリックし、「回復」および「構成データのすべての復元」を選択します。

1 次区画の再始動が完了した後、「バックアップおよび回復の手引き」 の回復に関するセクションに概説されている回復ステップを続行します。

保守ツール・ウィンドウを使用してすべての構成データを復元するには、次のステップを実行します。

1. iSeries ナビゲーターで、「ユーザー接続」またはアクティブな環境を選択します。
2. 「タスクパッド」ウィンドウで「**iSeries ナビゲーター保守ツール**」ウィンドウをオープンします。」を選択します。「タスクパッド」ウィンドウが表示されない場合は、「表示」を選択し、「タスクパッド」を選択します。

3. 接続する保守ツール・ネットワーク・インターフェースの **IP アドレス**を入力します。「**OK**」をクリックします。
4. **保守ツール・ユーザー ID** および**ユーザー・パスワード**の入力を求めるプロンプトが出されます。
5. システム名を展開し、「**論理区画**」を選択します。
6. 論理区画を右マウス・ボタンでクリックし、「**区画の構成**」を選択します。「論理区画の構成」ウィンドウでの作業になります。
7. 「**物理システム**」を右マウス・ボタンでクリックし、「**回復**」および「**構成データのすべての復元**」を選択します。

1 次区画の再始動が完了した後、「バックアップおよび回復の手引き」  の回復に関するセクションに概説されている回復ステップを続行します。

論理区画の区画構成データの消去

次の区画の論理データを消去することができます。

- すべての論理区画 (すべての論理区画を削除します。)
- 非構成のディスク装置 (ディスク装置の古い構成データを消去します。)

すべての論理区画の区画構成データの更新

重要: これらのステップは、サービス技術員の指示があったときのみ実行してください。

1 次区画から構成データを活動状態のすべての論理区画に手動でコピーすることで、活動状態の論理区画構成データを更新することができます。非活動状態の区画はすべて、次の再始動時に自動的に更新されます。

重要: 1 次区画の構成データに誤りがあるときにこの機能を使用すると、既存の構成が破壊されることがあります。

iSeries ナビゲーターを使用して、論理区画の構成データを更新することができます。マネージメント・セントラルを使用して構成データを更新するには、次のステップを実行します。

1. iSeries ナビゲーターで、「**マネージメント・セントラル**」を展開します。
2. 「**区画があるシステム**」を展開します。
3. 構成データを更新する物理システムを選択します。
4. 論理区画を右マウス・ボタンでクリックし、「**区画の構成**」を選択します。「論理区画の構成」ウィンドウでの作業になります。
5. 「**物理システム**」を右マウス・ボタンでクリックし、「**回復**」および「**構成データの更新**」を選択します。

「ユーザー接続」を使用して構成データを更新するには、次のステップを実行します。

1. iSeries ナビゲーターで、「**ユーザー接続**」またはアクティブな環境を展開します。
2. このシステムの 1 次区画を選択します。
3. 「**構成およびサービス**」を展開し、「**論理区画**」を選択します。
4. 「**論理区画**」を右マウス・ボタンでクリックし、「**区画の構成**」を選択します。「論理区画の構成」ウィンドウでの作業になります。

5. 「物理システム」を右マウス・ボタンでクリックし、「回復」および「構成データの更新」を選択します。

保守ツール・ウィンドウを使用して構成データを更新するには、次のステップを実行します。

1. iSeries ナビゲーターで、「ユーザー接続」またはアクティブな環境を選択します。
2. 「タスクパッド」ウィンドウで「**iSeries ナビゲーター保守ツール**」ウィンドウをオープンします。」を選択します。「タスクパッド」ウィンドウが表示されない場合は、「表示」を選択し、「タスクパッド」を選択します。
3. 接続する保守ツール・ネットワーク・インターフェースの **IP アドレス**を入力します。「OK」をクリックします。
4. 保守ツール・ユーザー ID およびユーザー・パスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。
5. システム名を展開し、「論理区画」を選択します。
6. 論理区画を右マウス・ボタンでクリックし、「区画の構成」を選択します。「論理区画の構成」ウィンドウでの作業になります。
7. 「物理システム」を右マウス・ボタンでクリックし、「回復」および「構成データの更新」を選択します。

非構成ディスク装置からの区画構成データの消去

論理区画間またはサーバー間でディスク装置を移動した場合、サーバーが再び論理区画を使用する前に、古い構成データを消去する必要があります。

ディスク装置が次の条件をすべて満たす場合は、構成データを消去する必要があります。

- プロダクト活動ログ (PAL) で、非構成のディスク装置に対してシステム参照コード (SRC) B600 5311 が表示されている。
- ディスク装置が属する論理区画の IPL 装置ではなくなった。
- IPL 装置であった元の論理区画から別の論理区画に移動されたか、または別のサーバーの論理区画に移動された。

この操作は、次のように専用保守ツール (DST) 画面から実行します。

1. 「DST」メニューに進みます。
2. オプション 11 (システム区画の処理) を選択します。
3. オプション 4 (構成データの回復) を選択します。
4. オプション 3 (非構成ディスク装置構成データの消去) を選択します。
5. 構成データを消去したいディスク装置を選択します。そのディスク装置の左側の「オプション (Opt)」フィールドに 1 を入力します。
6. 実行キーを押します。
7. 構成データの削除が確認されます。
8. この変更は、すぐに有効になります。

論理区画の非報告リソースの消去

重要: 障害とマークされているハードウェアがある場合には、この操作を実行してはなりません。サーバーのすべてのハードウェアが完全に操作可能な場合のみ、この手順を実行してください。

論理区画のあるサーバーでハードウェアの追加、除去、または移動を行うと、使用不可になったリソースや、二重にリストされるリソース、サーバー上になくなったリソースが生じる場合があります。

論理区画の構成データから非報告のリソースがすべて消去されるように、これらのリストをクリーンアップすることができます。

また、iSeries ナビゲーターを使用して非報告の論理区画リソースを消去することもできます。マネージメント・セントラルを使用して、非報告の論理区画リソースを消去するには、次のステップを実行します。

1. iSeries ナビゲーターで、「**マネージメント・セントラル**」を展開します。
2. 「**区画があるシステム**」を展開します。
3. 処理する論理区画がある物理システムを選択します。
4. 非報告の論理区画リソースを消去する区画を選択します。
5. 論理区画を右マウス・ボタンでクリックし、「**区画の構成**」を選択します。「論理区画の構成」ウィンドウでの作業になります。
6. 「**物理システム**」を右マウス・ボタンでクリックし、「**回復**」および「**非報告論理区画リソースの消去**」を選択します。

「ユーザー接続」を使用して非報告の論理区画リソースを消去するには、次のステップを実行します。

1. iSeries ナビゲーターで、「**ユーザー接続**」またはアクティブな環境を展開します。
2. このシステムの 1 次区画を選択します。
3. 「**構成およびサービス**」を展開し、「**論理区画**」を選択します。
4. 非報告の論理区画リソースを消去する区画を選択します。
5. 「**論理区画**」を右マウス・ボタンでクリックし、「**区画の構成**」を選択します。「論理区画の構成」ウィンドウでの作業になります。
6. 「**物理システム**」を右マウス・ボタンでクリックし、「**回復**」および「**非報告論理区画リソースの消去**」を選択します。

保守ツール・ウィンドウを使用して非報告の論理区画リソースを消去するには、次のステップを実行します。

1. iSeries ナビゲーターで、「**ユーザー接続**」またはアクティブな環境を選択します。
2. 「タスクパッド」ウィンドウで「**iSeries ナビゲーター保守ツール**」ウィンドウをオープンします。」を選択します。「タスクパッド」ウィンドウが表示されない場合は、「**表示**」を選択し、「**タスクパッド**」を選択します。
3. 接続する保守ツール・ネットワーク・インターフェースの **IP アドレス**を入力します。「**OK**」をクリックします。
4. **保守ツール・ユーザー ID** および**ユーザー・パスワード**の入力を求めるプロンプトが出されます。
5. システム名を展開し、「**論理区画**」を選択します。
6. 非報告の論理区画リソースを消去する区画を選択します。
7. 論理区画を右マウス・ボタンでクリックし、「**区画の構成**」を選択します。「論理区画の構成」ウィンドウでの作業になります。
8. 「**物理システム**」を右マウス・ボタンでクリックし、「**回復**」および「**非報告論理区画リソースの消去**」を選択します。

論理区画の IPL 装置としてのディスク装置の受け入れ

論理区画の IPL 装置の構成データが、予期されたものと異なる場合には、プロダクト活動ログ (PAL) にエラーが表示されます。IPL ディスク装置に対して、参照コード B600 5311 が書き込まれます。

サーバー内、または別のサーバーから、ディスク装置の移動や追加を最近行った場合、このようなディスク装置に構成データが保持される場合があります。これらのディスク装置のいずれかを IPL 装置として使用しない場合には、構成データの消去を行ってから、処理を続けてください。

あるいは、新規ディスク装置の 1 つを論理区画の新規 IPL 装置として使用する場合は、専用保守ツール (DST) メニューから次のステップを実行してください。

1. DST メニューで、オプション 11 (システム区画の処理) を選択します。
2. オプション 4 (構成データの回復) を選択します。
3. オプション 5 (IPL ディスク装置の受け入れ) を選択します。
4. 論理区画の IPL 装置としてディスクを使用することを確認したら、F10 キーを押します。サーバーは、IPL ディスク装置上の構成データを現行の構成データと置き換えます。
5. 論理区画は、新しい IPL ディスク装置を使用して、IPL を継続します。

IPL ソース間での区画構成データのコピー

A または B の IPL ソースから再始動しているが、両方からは再始動していない場合は、論理区画構成データのディスク読み取りエラーがサーバーで発生する可能性があります。以下のシステム参照コードが表示されます。

- 1 B193 4511
- 2 xxxx xxx5D (x は 0-9 または A-F の値です)
- 3 690A 2060

この操作を実行すると、正しく動作しているソースからエラーのあるソースにデータをコピーすることができます。

重要: この操作は、他の IPL ソースを使用しているときには論理区画が正しく再始動することが確認されている場合にのみ実行してください。

この操作は、次のように「専用保守ツール (DST)」画面から実行します。

1. この操作を 1 次区画で実行する場合には、2 次区画の電源をすべてオフにしてください。それ以外の場合は、次のステップに進んでください。
2. 他の IPL ソース (たとえば、ソース B に問題がある場合にはソース A) を使用して、手動モードでサーバーを再始動してください。
3. DST から、オプション 11 (システム区画の処理) を選択します。
4. この IPL ソースにある構成情報が正しいかどうか確認してください。これは、論理区画の状況を表示するための「論理区画 管理」のステップを使用して確認します。論理区画の最新の構成が表示されていれば、正しい構成になっています。構成が正しい場合には、次のステップに進んでください。構成が正しくない場合には、**先に進まずに**、サービス技術員に連絡してください。
5. F3 キーを押して、「システム区画の処理」メニューに戻ります。
6. オプション 4 (構成データの回復) を選択します。
7. オプション 6 (構成データの他のサイドへのコピー) を選択します。

8. 選択内容を確認して、F10 キーを押します。
9. 他の IPL ソース (ソース A に、コピーしたばかりの正しい構成データがある場合にはソース B) を使用して、論理区画を再始動します。
10. 問題が解決しない場合には、サービス技術員に連絡してください。

すべての論理区画の削除

すべての論理区画を消去し、サーバーを区画のない状態に戻さなければならない場合があります。

すべてのハードウェア・リソースを 1 次区画に戻すことはできますが、2 次区画にあるユーザー・データはすべて消去されます。すべての論理区画について、適切なバックアップが用意できていることを確認してください。

重要: これらの操作を行うと、2 次区画上のユーザー・データおよびシステム・データは、すべて破壊されます。

また、iSeries ナビゲーターを使用して、論理区画構成データを削除することもできます。マネージメント・セントラルを使用してすべての論理区画構成データを削除するには、次のステップを実行します。

1. iSeries ナビゲーターで、「マネージメント・セントラル」を展開します。
2. 「区画があるシステム」を展開します。
3. 処理する論理区画がある物理システムを選択します。
4. 論理区画を右マウス・ボタンでクリックし、「区画の構成」を選択します。「論理区画の構成」ウィンドウでの作業になります。
5. 「物理システム」を右マウス・ボタンでクリックし、「回復」および「区画をすべて削除」を選択します。
6. 確認ボックスが表示され、区画構成データの削除が選択されたことを確認します。「OK」をクリックして、選択したことを確認します。


「ユーザー接続」を使用して論理区画構成データをすべて削除するには、次のステップを実行します。

1. iSeries ナビゲーターで、「ユーザー接続」またはアクティブな環境を展開します。
2. このシステムの 1 次区画を選択します。
3. 「構成およびサービス」を展開し、「論理区画」を選択します。
4. 「論理区画」を右マウス・ボタンでクリックし、「区画の構成」を選択します。「論理区画の構成」ウィンドウでの作業になります。
5. 「物理システム」を右マウス・ボタンでクリックし、「回復」および「区画をすべて削除」を選択します。
6. 確認ボックスが表示され、区画構成データの削除が選択されたことを確認します。「OK」をクリックして、選択したことを確認します。

保守ツール・ウィンドウを使用して論理区画構成データをすべて削除するには、次のステップを実行します。

1. iSeries ナビゲーターで、「ユーザー接続」またはアクティブな環境を選択します。
2. 「タスクパッド」ウィンドウで「iSeries ナビゲーター保守ツール」ウィンドウをオープンします。」を選択します。「タスクパッド」ウィンドウが表示されない場合は、「表示」を選択し、「タスクパッド」を選択します。


3. 接続する保守ツール・ネットワーク・インターフェースの **IP アドレス**を入力します。「**OK**」をクリックします。
4. **保守ツール・ユーザー ID およびユーザー・パスワード**の入力を求めるプロンプトが出されます。
5. システム名を展開し、「**論理区画**」を選択します。
6. 論理区画を右マウス・ボタンでクリックし、「**区画の構成**」を選択します。「論理区画の構成」ウィンドウでの作業になります。
7. 「**物理システム**」を右マウス・ボタンでクリックし、「**回復**」および「**区画をすべて削除**」を選択します。
8. 確認ボックスが表示され、区画構成データの削除が選択されたことを確認します。「**OK**」をクリックして、選択したことを確認します。

ユーザー・データまたはシステム・データのサーバーへの復元方法については、「バックアップおよび回復の手引き」  を参照してください。

サービス技術員の援助を必要とする状態

サーバーでのトラブルシューティング作業のなかには、カスタマー・サポート担当者の援助が必要となるものがあります。このような作業は一般的なものではなく、サポート担当者が必要と判断した場合にのみ実行されます。データの損失やハードウェアへの損傷を回避して、適切な解決策を見出せるようにするため、以下の作業を行なう前にサポート担当者に連絡してください。

- 論理区画を持つサーバーでの主記憶域ダンプの実行
- 論理区画を持つサーバーでの主記憶域ダンプの強制
- 論理区画でのリモート保守の使用
- 論理区画のあるドメインの電源オン/オフ
- 論理区画のあるディスク装置 IOP のリセット

サーバーでこれらの作業のいずれかを実行する必要がある場合は、ただちに **iSeries and AS/400 Technical Support Center**  に連絡して、サポートを受けてください。

論理区画を持つサーバーでの主記憶域ダンプの実行

サーバーで主記憶域ダンプを実行する場合は、**カスタマー・サポート担当者に連絡してください。**

サーバーに障害があると、サーバーは主記憶域ダンプを作成する場合があります。主記憶域ダンプでは、サーバーのメモリーの内容をディスクにコピーします。このコピーは問題分析の重要なツールとなります。論理区画のあるサーバー上では、主記憶域ダンプを作成する障害には 2 つのタイプがあります。サーバーの障害と 2 次区画の障害です。

サーバー処理ハードウェアまたは主記憶域ハードウェアによって 1 次区画内に障害が発生すると、サーバー全体が故障する原因になる場合があります。2 次区画でのソフトウェア障害が原因で、論理区画だけが故障する場合があります。

サーバーが故障すると、サーバーで主記憶域ダンプを作成する場合があります。2 次区画が故障すると、その論理区画のみで主記憶域ダンプを作成する場合があります。

主記憶域ダンプの詳細については、「システム操作の基本」を参照してください。

論理区画を持つサーバーでの主記憶域ダンプの強制

サーバーで主記憶域ダンプを実行する場合は、**カスタマー・サポート担当者に連絡してください。**

サーバーに障害があると、サーバーは主記憶域ダンプを作成する場合があります。主記憶域ダンプは、サーバーの主記憶域の内容をディスクにコピーします。このコピーは問題分析の重要なツールとなります。論理区画のあるサーバー上では実行できる主記憶域ダンプには次の 2 種類があります。

- サーバー (42 参照) の主記憶域ダンプ。
- 2 次区画 (42 参照) の主記憶域ダンプ。

サーバー処理ハードウェアまたは主記憶域ハードウェアによって 1 次区画内に障害が発生すると、サーバー全体が故障する原因になる場合があります。2 次区画でのソフトウェア障害が原因で、論理区画だけが故障する場合があります。

サーバーが故障すると、サーバーで主記憶域ダンプを作成する場合があります。2 次区画が故障すると、その論理区画のみで主記憶域ダンプを作成する場合があります。

主記憶域ダンプの詳細については、「システム操作の基本」を参照してください。

カスタマー・サポートまたはサービス技術員から指示された場合は、論理区画のあるサーバーで主記憶域ダンプを強制することができます。

サービス技術員からの指示がない場合は、サーバーの主記憶域ダンプを実行しないでください。

重要: サーバーの主記憶域ダンプを実行するときに、活動状態の各 2 次区画も主記憶域ダンプを実行する場合があります。その後ですべてを再始動します。これには時間がかかります。

サーバーでの主記憶域ダンプの実行の詳細については、「システム操作の基本」を参照してください。

主記憶域ダンプがすでに進行中でない場合は、「区画状況の処理」画面が 2 次区画のコンソールに表示されます。進行中の場合は、「主記憶域ダンプ」画面が 2 次区画のコンソールに表示されます。

2 次区画の主記憶域ダンプは、サービス技術員からの指示のもとでのみ実行してください。2 次区画で主記憶域ダンプを実行する場合、リモート・コントロール・パネルで作業する必要があります。**機能 22** は、リモート・コントロール・パネルで主記憶域ダンプを強制します。

リモート・コントロール・パネルの使用方法については、『リモート・コントロール・パネルの使用』を参照してください。

2 次区画で機能 22 (主記憶域ダンプの強制) を実行できない場合は、サービス技術員の指示のもとでシステムの主記憶域ダンプを実行します。1 次区画のコンソールで「主記憶域ダンプの発生 (Main Storage Dump Occurred)」画面が表示されたら実行キーを押し、オプション 6 (すべての区画をダンプ (Dump all partitions)) を選択します。主記憶域ダンプは、アクティブな各区画に対して開始され、また、各区画のディスクにコピーする必要があります。

論理区画でのリモート保守の使用

サービス技術員から指示された場合のみ、この手順を使用してください。

リモート保守は、サービス技術員がモデムを通じてユーザーのサーバーにアクセスするための方法です。

リモート保守を使用する論理区画には、モデム付きのエレクトロニック支援通信 IOP が必要です。IOP は、区画の ECS リソースとしてタグを付ける必要があります。

通信 IOP が共用バス上にあり、別の区画によって使用されている場合は、モデムを使用する必要のある区画に IOP を切り替えてください。また、この IOP がオペレーション・コンソールに接続されている場合、IOP の切り替えが元の区画に戻されるまで、コンソールが使用できなくなることがあります。

重要: 使用していないときにリモート保守を使用可能のままにしておくことは、セキュリティ上のリスクになります。これにより、知らない間に何者かが iSeries サーバーにアクセスできてしまう可能性があります。サービス技術員がリモート保守の使用を終了した際に、この保守を必ず使用不可とするようにしてください。

論理区画でリモート保守を使用する場合は、リモート・コントロール・パネルで作業する必要があります。**機能 66** はリモート保守を活動化し、**機能 65** はリモート保守を非活動化します。保守を非活動化しないと、セキュリティ上のリスクになります。

リモート・コントロール・パネルの使用方法については、『リモート・コントロール・パネルの使用』を参照してください。

論理区画のあるドメインの電源オン/オフ

サービス技術員から指示された場合のみ、この手順を使用してください。

ドメインの電源オン/オフは、ディスク装置の入出力プロセッサ (IOP) に障害が発生したときに実行することができます。ディスク装置の IOP に障害が起こると、IOP のディスク装置が使用できなくなるか、またはサーバーがハングします。ドメインは、システムによって関連するものとして定義されたハードウェア・リソースのグループです。

サービス技術員の指示に従ってドメインの電源オフを実行すると、サーバーは、障害が起こったディスク装置の IOP をシャットダウンします。論理区画またはサーバー全体を再始動せずに、障害が起こったディスク装置を取り替えることができます。

ドメインの電源オフおよび電源オンを行う場合、リモート・コントロール・パネルで作業する必要があります。サービス技術員の指示に従って、ドメインを電源オフするときは**機能 68** を選択し、ドメインを電源オンするときは**機能 69** を選択します。

リモート・コントロール・パネルの使用方法については、『リモート・コントロール・パネルの使用』を参照してください。

論理区画のあるディスク装置 IOP のリセット

サービス技術員から指示された場合のみ、この手順を使用してください。

この機能を使用して入出力プロセッサ (IOP) のダンプの開始、および IOP リセットまたは IOP 再ロードの開始を行います。この機能は、特定のディスク装置の SRC が表示され、関連する IOP がリセットまたは再ロード機能をサポートしている場合に、使用可能になります。

重要: この機能を正しく使用しないと、データが損失する場合があります。また、コストのかかるハードウェア障害であると誤って診断されるような障害が発生することもあります。

ディスク装置 IOP をリセットする場合は、リモート・コントロール・パネルで作業する必要があります。
機能 67 は、ディスク装置 IOP をリセット/再ロードします。

リモート・コントロール・パネルの使用方法については、『リモート・コントロール・パネルの使用』を参照してください。



Printed in Japan